

第2章 福祉協力員の小地域福祉活動調査のまとめ

I 調査の手続きと基本属性

1 調査の手続き

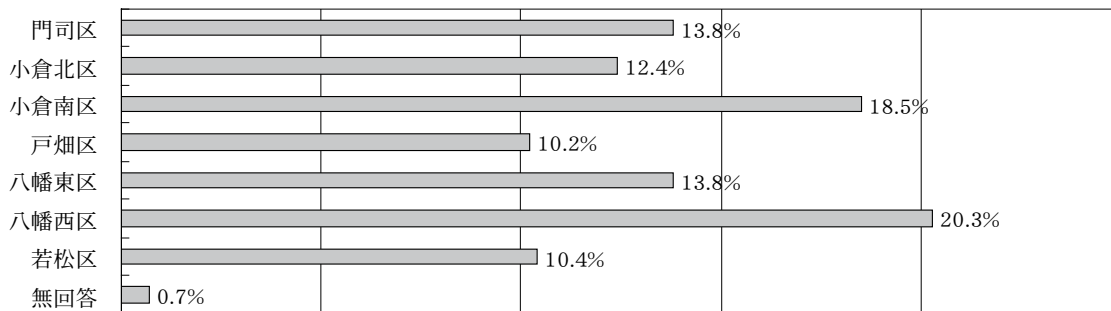
調査基準日	平成19年12月末現在
調査期間	平成20年2月1日～29日
調査対象者	校(地)区社会福祉協議会福祉協力員
調査方法	郵送法
調査対象者数	770 (154校(地)区社協×5人)
有効回収票	447 (有効回収率 58.1%)
集計総数	443

2 基本属性

(1) 所属している校(地)区社会福祉協議会の所在地

回答してくれた福祉協力員の所属する校(地)区社会福祉協議会の所在地は図表1のとおりである。回答数は各区の校(地)区社協の数に概ね比例している。

図表1 所属する校(地)区社協の所在地



(2) 回答者の性別

回答者の性別は図表2のとおり、女性が約60%を占めている。第1章でみた役員調査の回答者は90%が男性であったが、福祉協力員の回答者は半数以上が女性である。

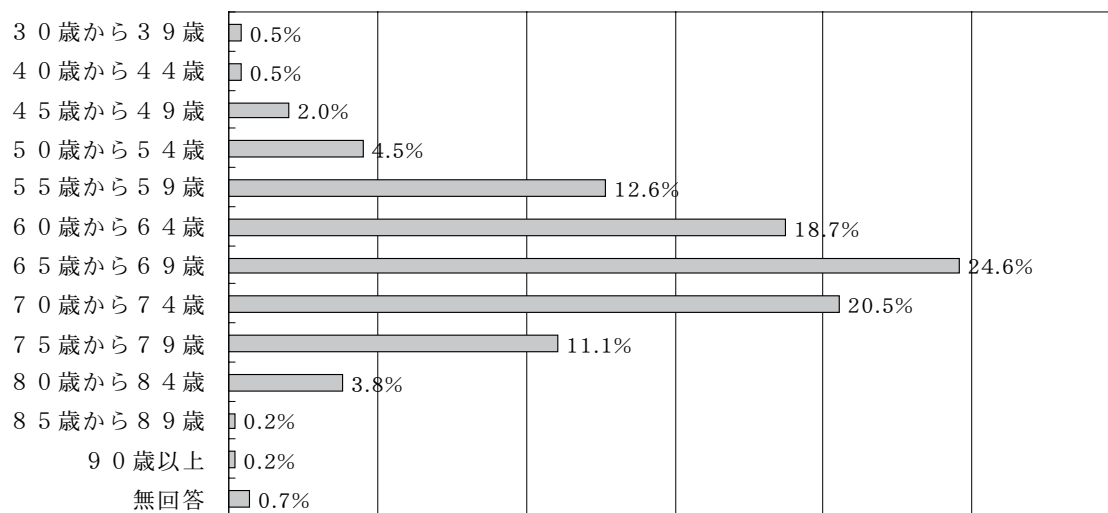
図表2

男性	169	38.1%
女性	273	61.6%
無回答	1	0.2%

(3) 回答者の年齢構成

図表3のとおり、回答者の年齢構成は60歳～74歳で63.8%を占めている。また、75歳以上も15.3%を占め、僅かではあるが85歳以上の回答者も見られる。他方、60歳未満の回答者は20.1%であり、そのうち30～40歳代の回答者は3%ほどである。役員調査の回答者の平均年齢が71.8歳であるのに対して、福祉協力員の回答者の平均年齢は66.2歳であり、全体として役員層よりも若くなっている。

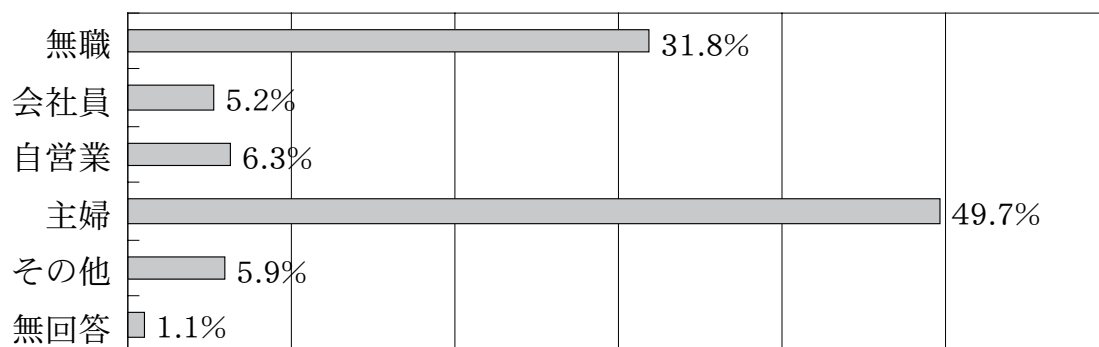
図表3 年齢分布



(4) 福祉協力員（回答者）の職業

図表4のとおり、福祉協力員は「主婦」（49.7%）や「無職」（31.8%）など職業をもっていない人がほとんどで、両者で81.5%を占める。「会社員」や「自営業」などの有業者は合わせて11.5%と少ない。

図表4 主たる職業



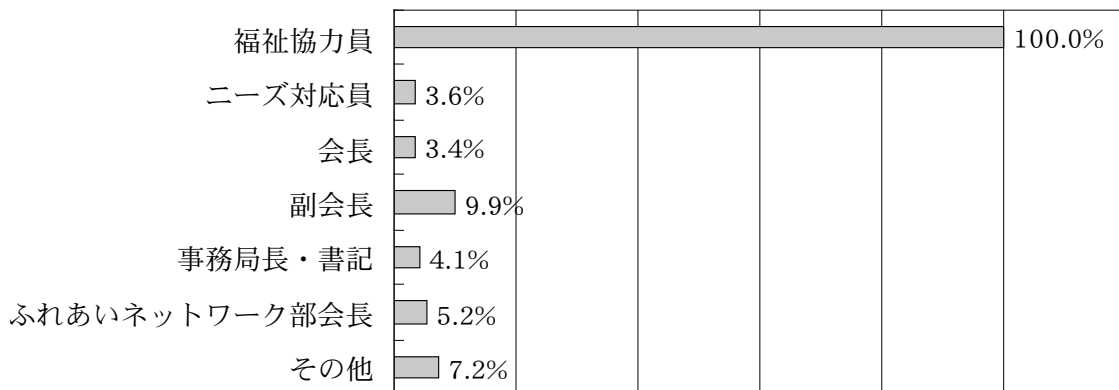
Ⅱ 小地域福祉活動について

1 福祉協力員への就任

(1) 校(地)区社協での役割

図表5のとおり、ほとんどの福祉協力員は福祉協力員以外の校(地)区社協での役職を兼務していないが、割合は高くないものの役員や事務局長などの役職を兼ねている福祉協力員も見られる。

図表5 校(地)区社協での役職

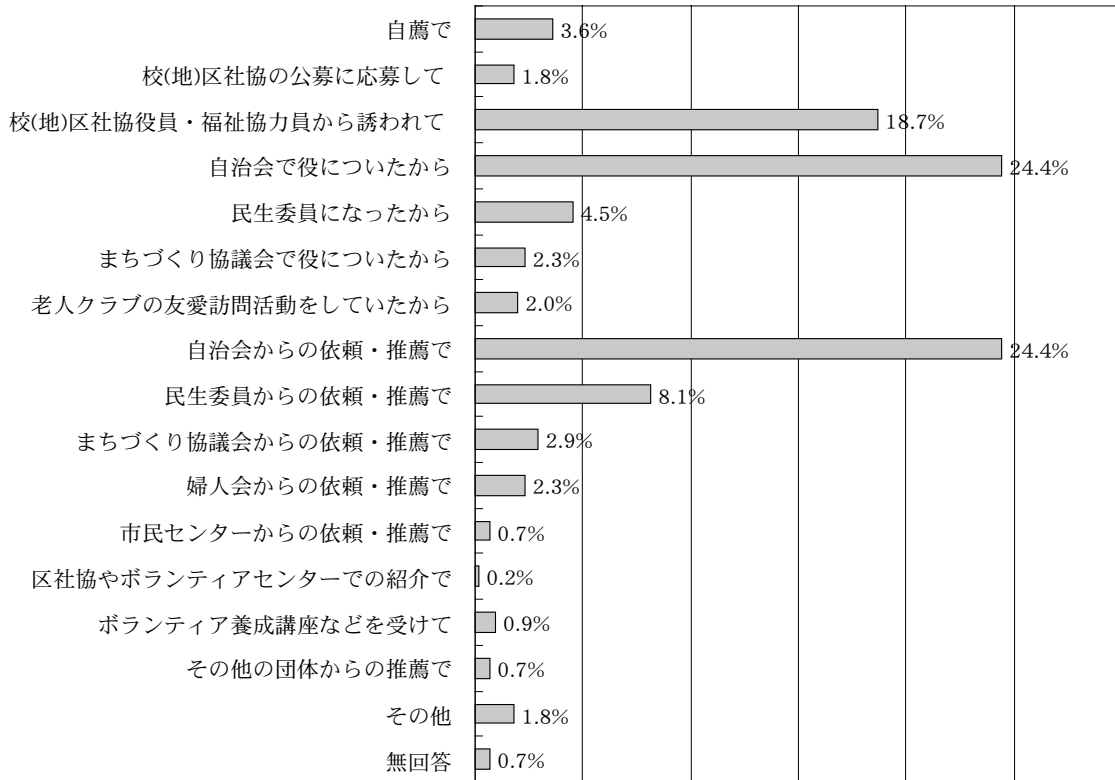


(2) 福祉協力員となった経緯

図表6のとおり、福祉協力員となった経緯としては、「自治会で役についたから」(24.4%)や「自治会からの依頼・推薦で」(24.4%)という回答が多く、両者で48.8%を占める。次に、「校(地)区社協役員・福祉協力員から誘われて」(18.7%)、「民生委員からの推薦・依頼で」(8.1%)が続く。

しかし、図表7により、福祉協力員となった経緯を地域別(区別)に見ると、地域ごとに特徴があることがわかる。たとえば、八幡東区の場合、「自治会で役についたから」(75.4%)と「自治会からの推薦・依頼で」(8.2%)を合わせると、83.6%の回答者が自治会との関わりを通じて福祉協力員となったと回答している。これに対して、戸畑区ではそのような回答者は6.6%に止まっている。そのかわり、戸畑区では「校(地)区社協役員・福祉協力員から誘われて」(28.9%)、「民生委員からの推薦・依頼で」(22.1%)、「民生委員になったから」(11.1%)などの回答が多く、校(地)区社協や民生委員との関わりが福祉協力員となる主なきっかけになっていることがわかる。そのほか、八幡西区では、福祉協力員となった経緯が自治会との関わりである回答者、校(地)区社協との関わりである回答者、民生委員との関わりである回答者が、概ね同じくらいの割合となっている。

図表6 福祉協力員になった経緯



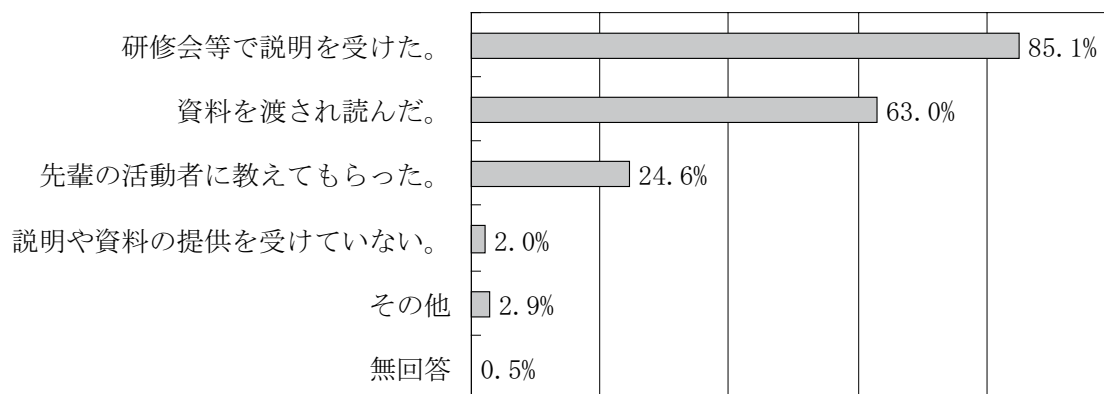
図表7 地域別（区別）にみた福祉協力員となった経緯

	自薦で	校(地)区社協の公募に応募して	校(地)区社協役員・福祉協力員から誘われて	自治会で役についたから	民生委員になったから	まちづくり協議会で役についたから	老人クラブの友愛訪問活動をしていたから	自治会からの依頼・推薦で	民生委員からの依頼・推薦で	まちづくり協議会からの依頼・推薦で	婦人会からの依頼・推薦で	市民センターからの依頼・推薦で	区社協やボランティアセンターでの紹介で	ボランティア養成講座などを受けて	その他の団体からの推薦で	その他	無回答	合計
門司区	2 3.3%	0 .0%	17 27.9%	10 16.4%	3 4.9%	1 1.6%	1 1.6%	16 26.2%	3 4.9%	1 1.6%	2 3.3%	0 .0%	0 .0%	4 6.6%	1 1.6%	0 .0%	0 .0%	61 100.0%
小倉北区	2 3.6%	0 .0%	5 9.1%	13 23.6%	4 7.3%	4 7.3%	1 1.8%	20 36.4%	5 9.1%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	1 1.8%	0 .0%	0 .0%	55 100.0%
小倉南区	1 1.2%	0 .0%	19 23.2%	14 17.1%	2 2.4%	0 .0%	2 2.4%	38 46.3%	3 3.7%	1 1.2%	1 1.2%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	1 1.2%	82 100.0%
戸畑区	1 2.2%	1 2.2%	13 28.9%	1 2.2%	5 11.1%	1 2.2%	2 4.4%	2 4.4%	10 22.2%	5 11.1%	0 .0%	1 2.2%	0 .0%	0 .0%	1 2.2%	2 4.4%	0 .0%	45 100.0%
八幡東区	0 .0%	0 .0%	2 3.3%	46 75.4%	0 .0%	2 3.3%	1 1.6%	5 8.2%	0 .0%	3 4.9%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	1 1.6%	1 1.6%	61 100.0%
八幡西区	6 6.7%	6 6.7%	19 21.1%	13 14.4%	6 6.7%	2 2.2%	2 2.2%	14 15.6%	13 14.4%	3 3.3%	2 2.2%	2 2.2%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	2 2.2%	0 .0%	90 100.0%
若松区	4 8.7%	1 2.2%	8 17.4%	11 23.9%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	12 26.1%	1 2.2%	0 .0%	4 8.7%	0 .0%	1 2.2%	0 .0%	0 .0%	3 6.5%	1 2.2%	46 100.0%
合計	16 3.6%	8 1.8%	83 18.9%	108 24.5%	20 4.5%	10 2.3%	9 2.0%	107 24.3%	35 8.0%	13 3.0%	9 2.0%	3 .7%	1 .2%	4 .9%	3 .7%	8 1.8%	3 .7%	440 100.0%

(3) ふれあいネットワーク事業の説明

図表8にあるとおり、ほとんど全ての回答者が研修会での説明や提供された資料によりふれあいネットワーク事業を理解している。説明や資料の提供を受けていないと回答した人は2%のみである。調査結果から研修等を通じてふれあいネットワーク事業について説明を受ける機会が確保されていると言えるが、「先輩の活動者に教えてもらった」という回答が少ないことから、新任の福祉協力員が経験のある地元の活動者から直接ふれあいネットワーク事業について学ぶ機会は少ないと言えるかもしれない。

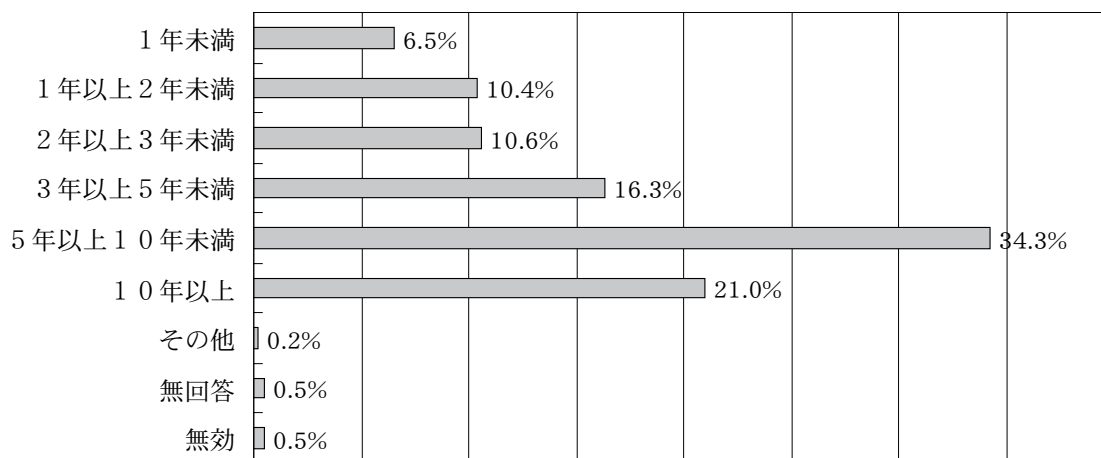
図表8 ふれあいネットワーク事業の説明



(4) 福祉協力員の就任年数

図表9にあるとおり、回答者の55.3%が福祉協力員を5年以上担っており、10年以上担っている回答者も全体の21%となっている。

図表9 福祉協力員就任年数



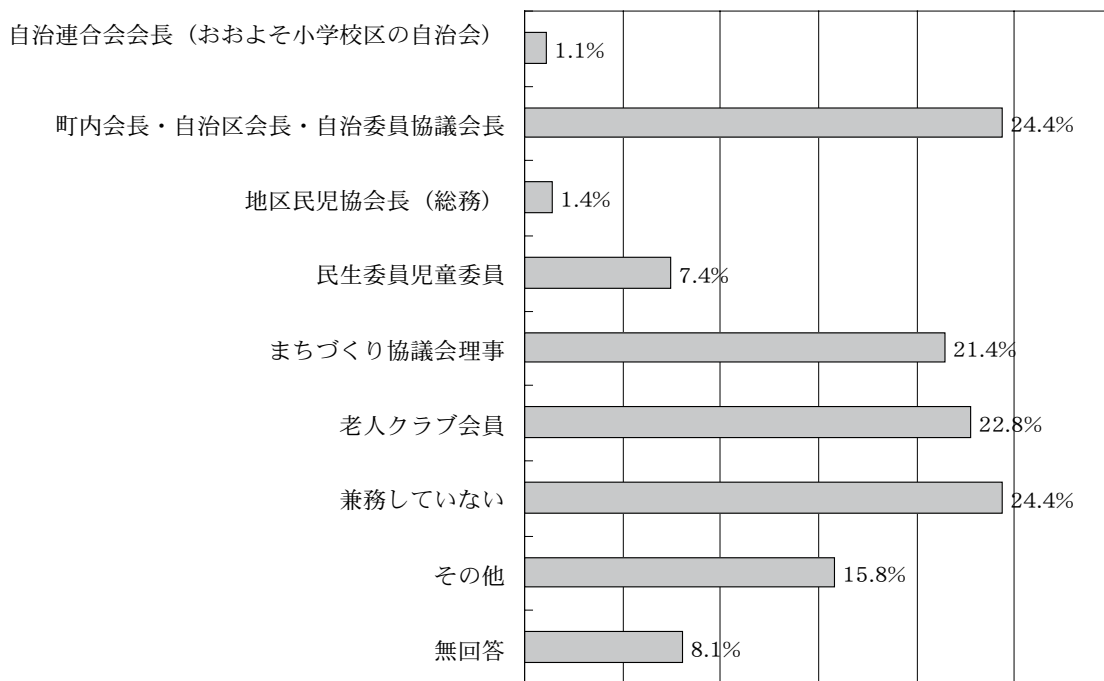
(5) 兼任している地域の役職

図表10のとおり、兼任している地域の役職としては「町内会長等」が24.4%、「まちづくり協

議会理事」が21.4%、「老人クラブ会員」が22.8%が目立っている。民生委員児童委員を兼ねている回答者も7.4%いる。

兼任している地域の役職についても、図表11のように地域別（区別）に見ると、いくつかの地域に大きな特徴があることがわかる。ここでも目を引くのは、八幡東区の回答者の実に82%が「町内会長等」と兼任していると回答していることである。その他、小倉北区でまちづくり協議会理事との兼任が多いこと、戸畑区、八幡西区は他の区よりも老人クラブにも加入している回答者が多いことなどがわかる。

図表10 校(地)区社協以外で兼任している地域の役職



図表11 地域別（区別）に見た福祉協力員の兼任役職

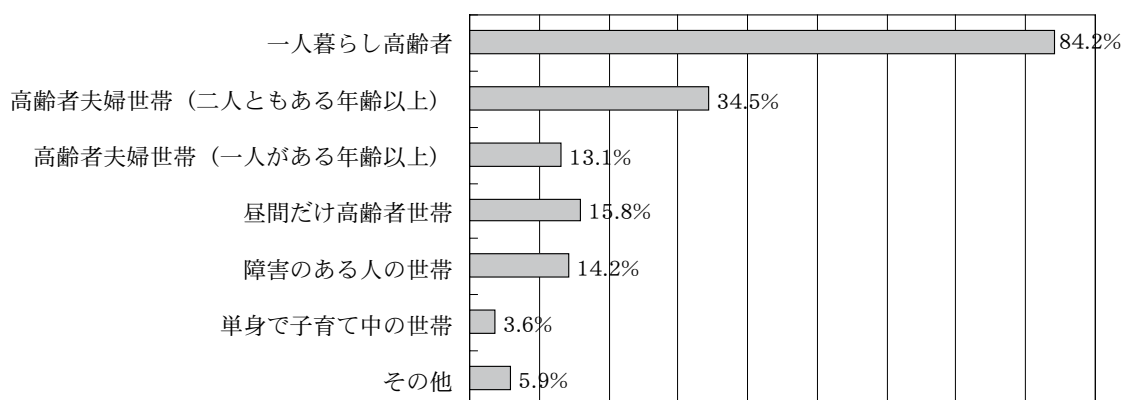
	自治連合会会長	町内会長等	地区民児協会長(総務)	民生委員児童委員	まちづくり協議会理事	老人クラブ会員	兼務していない	その他	無回答	合計
門司区	2 3.3%	7 11.5%	1 1.6%	5 8.2%	10 16.4%	11 18.0%	19 31.1%	6 9.8%	8 13.1%	61
小倉北区	2 3.6%	17 30.9%	2 3.6%	6 10.9%	19 34.5%	13 23.6%	9 16.4%	8 14.5%	2 3.6%	55
小倉南区	0 .0%	11 13.4%	1 1.2%	6 7.3%	14 17.1%	16 19.5%	28 34.1%	9 11.0%	9 11.0%	82
戸畑区	0 .0%	6 13.3%	0 .0%	2 4.4%	11 24.4%	14 31.1%	16 35.6%	6 13.3%	2 4.4%	45
八幡東区	1 1.6%	50 82.0%	0 .0%	4 6.6%	15 24.6%	12 19.7%	2 3.3%	6 9.8%	0 .0%	61
八幡西区	0 .0%	11 12.2%	2 2.2%	8 8.9%	22 24.4%	28 31.1%	19 21.1%	21 23.3%	9 10.0%	90
若松区	0 .0%	5 10.9%	0 .0%	2 4.3%	3 6.5%	6 13.0%	15 32.6%	14 30.4%	5 10.9%	46
合計	5	107	6	33	94	100	108	70	35	440

2 見守り活動について

(1) 見守り活動の対象世帯

図表12のとおり、見守りの対象世帯としては「一人暮らしの高齢者」をあげた回答者が最も多く、全体の84.2%を占め、次に「高齢者夫婦世帯（二人ともある年齢以上）」をあげた回答者が34.5%で続いている。「障害のある人の世帯」や「単身で子育て中の世帯」を見守っている福祉協力員がいることも確認できるが、全体としては、一人暮らしの高齢者世帯や高齢者夫婦世帯を見守ることが活動の中心となっている。

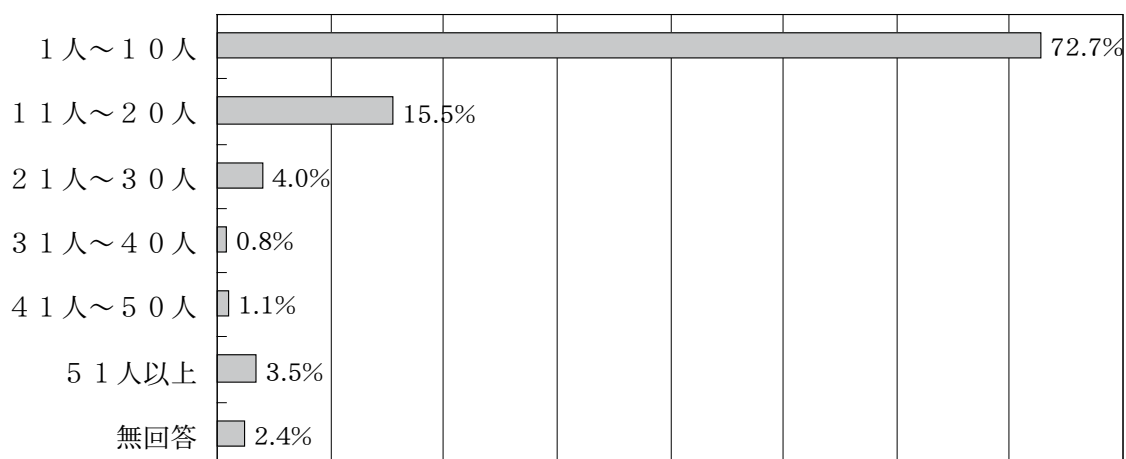
図表12 見守り対象世帯



(2) 見守り対象者の人数

次に、図表13で1人の福祉協力員が見守る「一人暮らしの高齢者」の人数を見てみると、1～10人が72.7%で大部分を占めている。

図表13 見守り対象者の人数

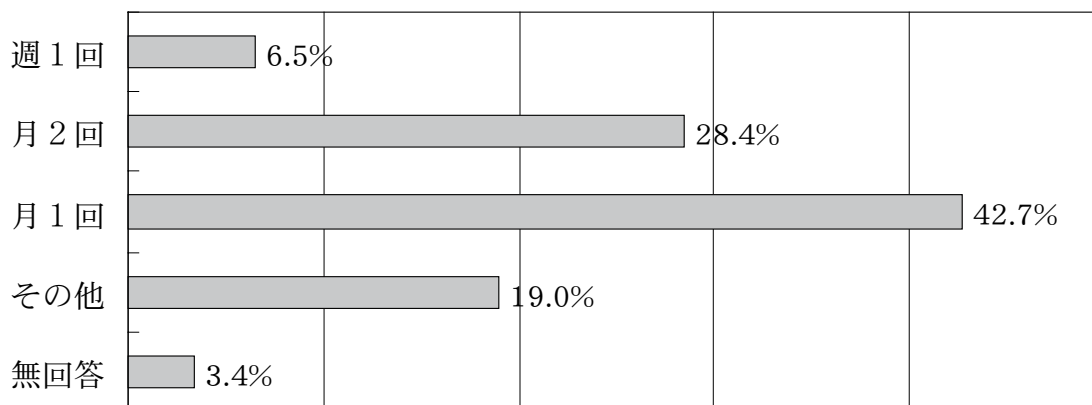


(3) 見守り活動の頻度

図表14のとおり、福祉協力員による定期的な見守り活動（具体的には訪問）は、対象者1人につき「月に1回」という回答が42.7%で最も多く、「月に2回」が23.4%で次に続く。(2)の結果を踏まえて1人の福祉協力員が10人の対象者を見守っているとすると、月に延べ10回～20回の定期

訪問を行っていることになる。ただし、この質問項目については、「その他」の記述が多く、その内容のほとんどが「月に数回の定期的訪問以外にも、必要に応じて追加の訪問を行っている」というものであった。

図表14 見守り活動の頻度

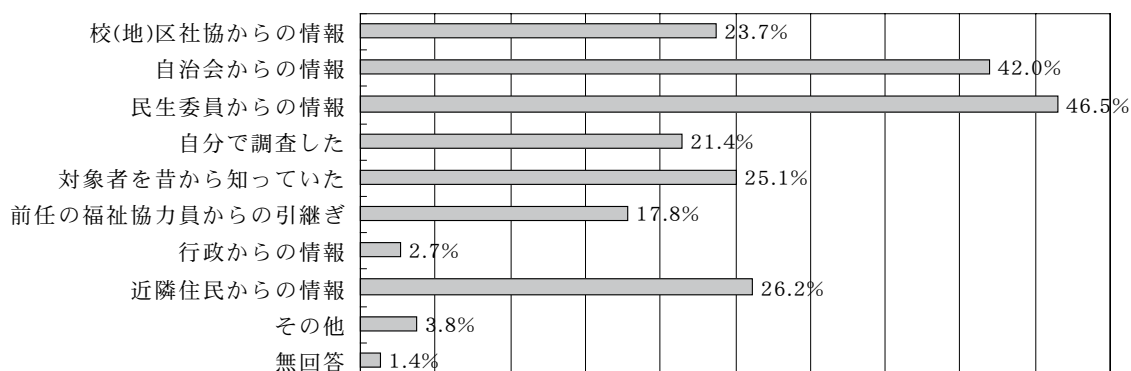


(4) 見守り対象者の情報把握

図表15より、見守りの対象者の所在は、「民生委員からの情報」(46.5%)と「自治会からの情報」(42%)によって把握されていることが多いことがわかる。その他、「校区社協からの情報」(23.7%)や「近隣住民からの情報」(26.2%)なども少なくないが、「行政からの情報」という回答は2.7%と非常に少ない。

また、図表16より見守り対象者の情報把握について地域別(区別)に見てみると、「校区社協からの情報」と回答した福祉協力員が市全体の割合よりも多い地域は、戸畑区(37.8%)、門司区(34.4%)、若松区(30.4%)、八幡西区(28.9%)であり、「自治会からの情報」と回答した福祉協力員が多い地域は、若松区(54.3%)、小倉南区(54.9%)、八幡東区(52.5%)、小倉北区(49.1%)である。また、「民生委員からの情報」については、特に八幡西区(74.4%)と戸畑区(62.2%)の高い割合が目立っている。

図表15 見守り対象者の情報把握方法



図表16 地域別（区別）にみた見守り対象者の情報把握の方法

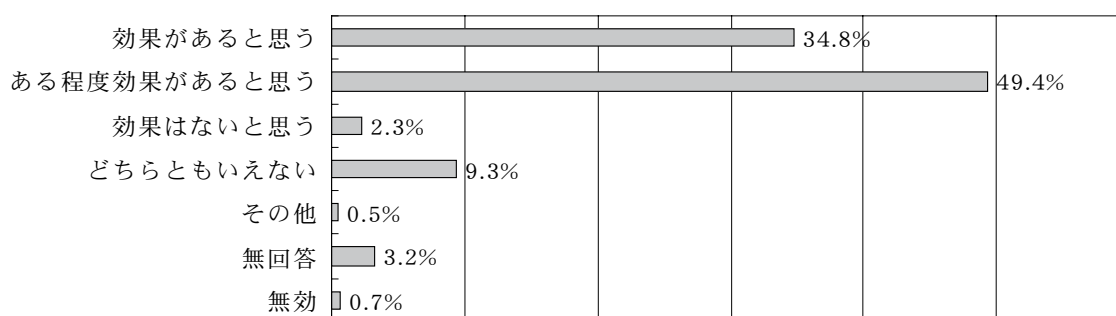
	校(地)区 社協から の情報	自治会か らの情報	民生委員 からの情 報	自分で調 査した	対象者を 昔から知 っていた	前任の福 祉協力員 からの引 継ぎ	行政から の情報	近隣住民 からの情 報	その他	無回答	合計
門司区	21 34.4%	24 39.3%	19 31.1%	11 18.0%	17 27.9%	17 27.9%	4 6.6%	15 24.6%	2 3.3%	4 6.6%	61 100.0%
小倉北区	4 7.3%	27 49.1%	19 34.5%	21 38.2%	12 21.8%	6 10.9%	1 1.8%	15 27.3%	2 3.6%	1 1.8%	55 100.0%
小倉南区	16 19.5%	45 54.9%	39 47.6%	12 14.6%	20 24.4%	20 24.4%	1 1.2%	23 28.0%	1 1.2%	0 .0%	82 100.0%
戸畑区	17 37.8%	7 15.6%	28 62.2%	12 26.7%	16 35.6%	3 6.7%	1 2.2%	11 24.4%	2 4.4%	0 .0%	45 100.0%
八幡東区	5 8.2%	32 52.5%	13 21.3%	12 19.7%	16 26.2%	5 8.2%	2 3.3%	17 27.9%	6 9.8%	6 9.8%	61 100.0%
八幡西区	26 28.9%	25 27.8%	67 74.4%	16 17.8%	22 24.4%	15 16.7%	3 3.3%	21 23.3%	3 3.3%	0 .0%	90 100.0%
若松区	14 30.4%	25 54.3%	19 41.3%	10 21.7%	6 13.0%	11 23.9%	0 .0%	12 26.1%	1 2.2%	1 2.2%	46 100.0%
合計	103	185	204	94	109	77	12	114	17	12	440

(5) 孤独死防止等の効果

回答者に孤独死の防止などの安否確認に対する見守り活動の効果をもどのように評価しているか尋ねると、図表17のとおり、「効果があると思う」（34.8％）と「ある程度、効果があると思う」（49.4％）という回答が大部分を占め（84.2％）、多くの回答者が見守り活動の効果について肯定的な評価をしていることがわかる。

また、図表18より、見守り活動の効果について地域別（区別）に見てみると、「効果がある」（「効果があると思う」と「ある程度、効果があると思う」の合計）という回答の割合は、他地域と比べて八幡東区で比較的低くなっている。

図表17 孤独死防止等の効果



図表18 地域別（区別）にみた孤独死防止等の効果

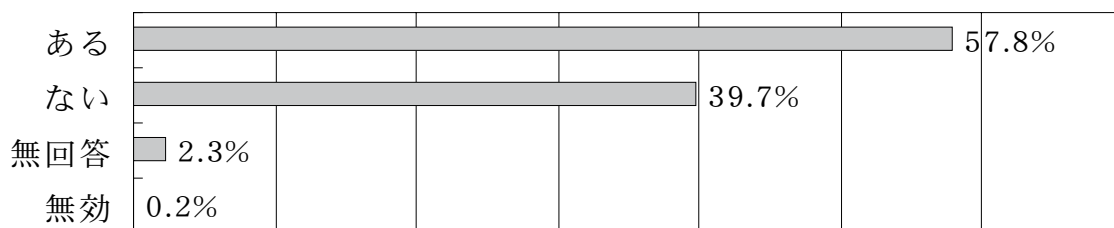
	効果がある と思う	ある程度効 果があると思 う	効果はない と思う	どちらとも いえない	その他	無回答	合計
門司区	17 27.9%	34 55.7%	2 3.3%	5 8.2%	0 .0%	3 4.9%	61 100.0%
小倉北区	18 32.7%	30 54.5%	1 1.8%	4 7.3%	0 .0%	2 3.6%	55 100.0%
小倉南区	39 47.6%	34 41.5%	1 1.2%	7 8.5%	0 .0%	1 1.2%	82 100.0%
戸畑区	20 44.4%	21 46.7%	0 .0%	3 6.7%	0 .0%	1 2.2%	45 100.0%
八幡東区	14 23.0%	28 45.9%	4 6.6%	8 13.1%	2 3.3%	5 8.2%	61 100.0%
八幡西区	32 35.6%	47 52.2%	0 .0%	9 10.0%	0 .0%	2 2.2%	90 100.0%
若松区	12 26.1%	25 54.3%	2 4.3%	5 10.9%	0 .0%	2 4.3%	46 100.0%
合計	152 34.5%	219 49.8%	10 2.3%	41 9.3%	2 .5%	16 3.6%	440 100.0%

(6) 困っていること（福祉ニーズ）の発見や相談

見守り活動において対象者の困っていること（福祉ニーズ）を見つけたり、相談されたりしたことがあるか、という質問に対しては、図表19のとおり、全体では57.8%の回答者が福祉ニーズを発見したり、相談されたりしたことがあると回答している。

また、図表20より、地域別（区別）に見てみると、福祉ニーズを発見したり、対象者から相談されたりした経験のある福祉協力員の割合は、最も高い八幡西区では70%であるが、最も低い戸畑区では42.2%となっており、30%ほどの開きがある。

図表19 福祉ニーズの発見や相談



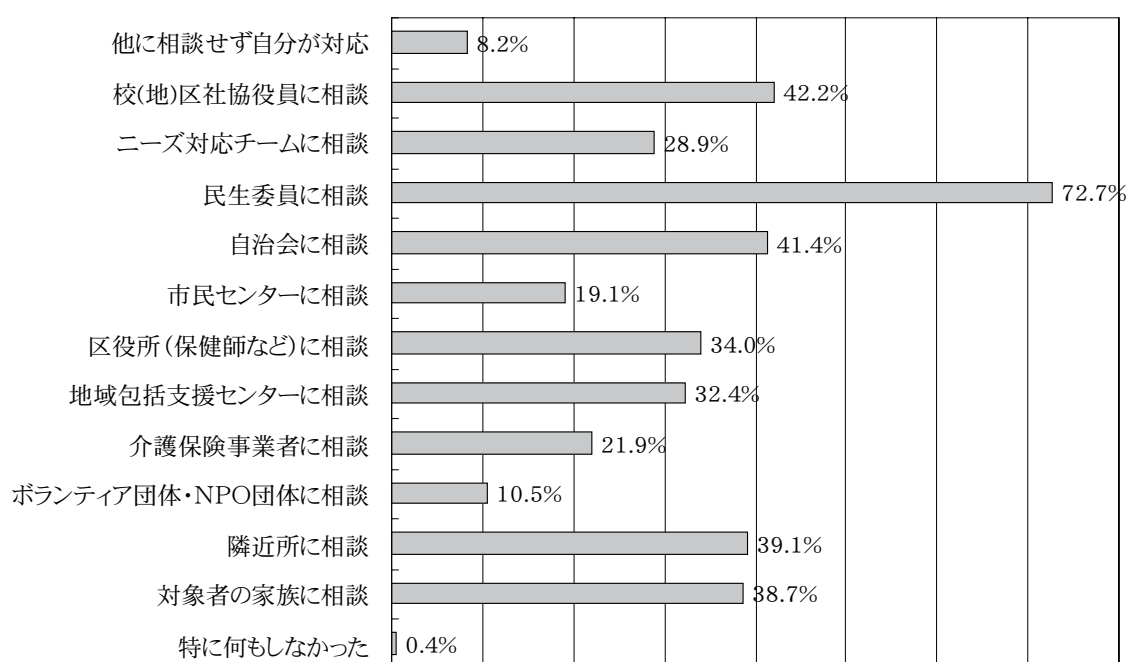
図表20 地域別（区別）にみた福祉ニーズの発見や相談

	福祉ニーズの発見や相談			合計
	ある	ない	無回答 無効	
門司区	33 54.1%	26 42.6%	2 3.3%	61 100.0%
小倉北区	34 61.8%	20 36.4%	1 1.8%	55 100.0%
小倉南区	46 56.1%	36 43.9%	0 .0%	82 100.0%
戸畑区	19 42.2%	25 55.6%	1 2.2%	45 100.0%
八幡東区	29 47.5%	29 47.5%	3 4.9%	61 100.0%
八幡西区	63 70.0%	26 28.9%	1 1.1%	90 100.0%
若松区	31 67.4%	14 30.4%	1 2.2%	46 100.0%
合計	255 58.0%	176 40.0%	9 2.0%	440 100.0%

(7) 福祉ニーズや相談への対応

発見した福祉ニーズや相談に対する対応については、図表21のとおり、福祉ニーズを発見したり、見守り対象者からの相談を受けたりしたことがあると回答した福祉協力員の72.7%が「民生委員に相談」と回答している。その他、校区社協役員、自治会、近隣所、家族に相談したことのある協力員はそれぞれ約4割程度、行政や地域包括支援センターへ相談したことのある福祉協力員は約3割となっているが、市民センター、介護保険事業者、ボランティア団体・NPOへの相談はそれほど多くない。

図表21 福祉協力員の相談相手



また、図表21にある福祉協力員の相談先の対応について、福祉協力員の満足度を見てみると、図表22～図表32のとおり、校区社協役員や民生委員の対応に対する満足度（「満足」と「おおむね満足」の合計が、それぞれ81.5%、84.4%）は高いが、市民センターや介護保険事業者の対応に対する満足度（「満足」と「おおむね満足」の合計が、それぞれ64.5%、60.7%）がやや低く、ボランティア団体や家族の満足度（「満足」と「おおむね満足」の合計が、それぞれ40.7%、55.6%）がさらに低くなっている。

図表22 校(地)区社協役員

満足	24	22.2%
おおむね満足	64	59.3%
どちらともいえない	13	12.0%
やや不満	6	5.6%
不満	1	0.9%
合計	108	100.0%

図表23 ニーズ対応チーム

満足	17	23.0%
おおむね満足	40	54.1%
どちらともいえない	13	17.6%
やや不満	4	5.0%
不満	0	0.0%
合計	74	100.0%

図表24 民生委員

満足	68	36.6%
おおむね満足	89	47.8%
どちらともいえない	16	8.6%
やや不満	6	3.2%
不満	61	3.2%
合計	186	100.0%

図表25 自治会

満足	28	26.4%
おおむね満足	50	47.2%
どちらともいえない	17	16.0%
やや不満	7	6.6%
不満	3	2.8%
無回答	1	0.9%
合計	106	100.0%

図表26 市民センター

満足	12	24.5%
おおむね満足	20	40.8%
どちらともいえない	14	28.6%
やや不満	2	4.1%
不満	1	2.0%
合計	49	100.0%

図表27 区役所（保健師など）

満足	11	12.6%
おおむね満足	55	63.2%
どちらともいえない	18	20.7%
やや不満	0	0.0%
不満	2	2.3%
無回答	1	1.1%
合計	87	100.0%

図表28 地域包括支援センター

満足	23	27.7%
おおむね満足	39	47.0%
どちらともいえない	15	18.1%
やや不満	5	6.0%
不満	1	1.2%
合計	83	100.0%

図表29 介護保険事業者

満足	7	12.5%
おおむね満足	27	48.2%
どちらともいえない	15	26.8%
やや不満	3	5.4%
不満	4	7.1%
合計	56	100.0%

図表30 ボランティア団体・NPO団体

満足	3	11.1%
おおむね満足	8	29.6%
どちらともいえない	15	55.6%
やや不満	0	0.0%
不満	1	3.7%
合計	27	100.0%

図表31 隣近所

満足	22	22.0%
おおむね満足	51	51.0%
どちらともいえない	23	23.0%
やや不満	2	2.0%
不満	1	1.0%
無回答	1	1.0%
合計	100	100.0%

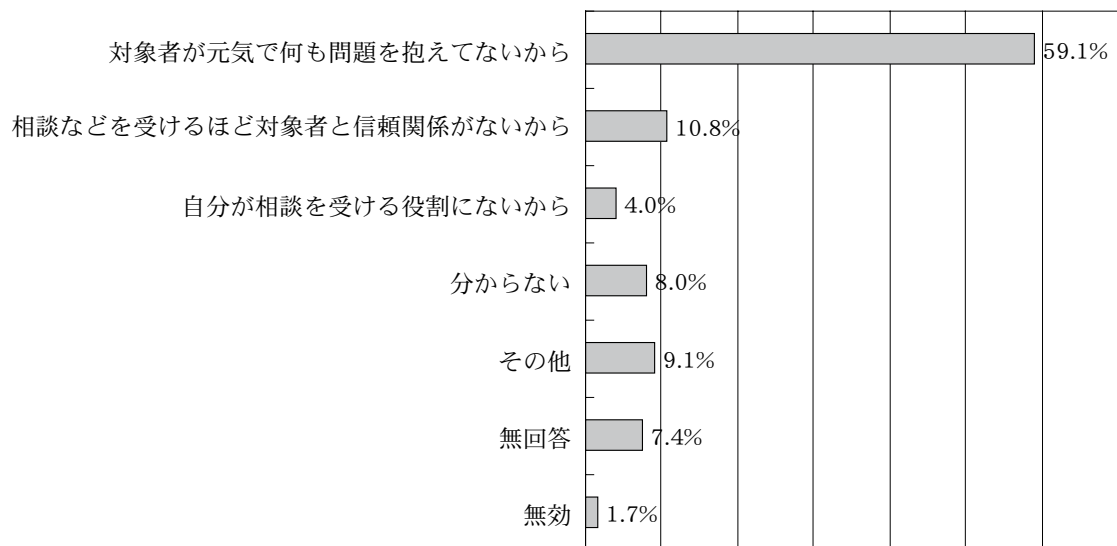
図表32 対象者の家族

満足	16	16.2%
おおむね満足	39	39.4%
どちらともいえない	32	32.3%
やや不満	9	9.1%
不満	3	3.0%
合計	99	100.0%

(8) 見守り対象者から相談がない理由

(6)で見たとおり、回答者の39.7%が、福祉ニーズを発見したり、対象者から相談されたりしたことがないと回答しているが、そうした経験がないと回答した福祉協力員に、見守り対象者から相談がない理由として考えられることは何か尋ねると、図表33のとおり、「対象者が元気で何も問題を抱えていないから」という回答が59.1%で最も大きな割合を占めている。

図表33 見守り対象者から相談がない理由

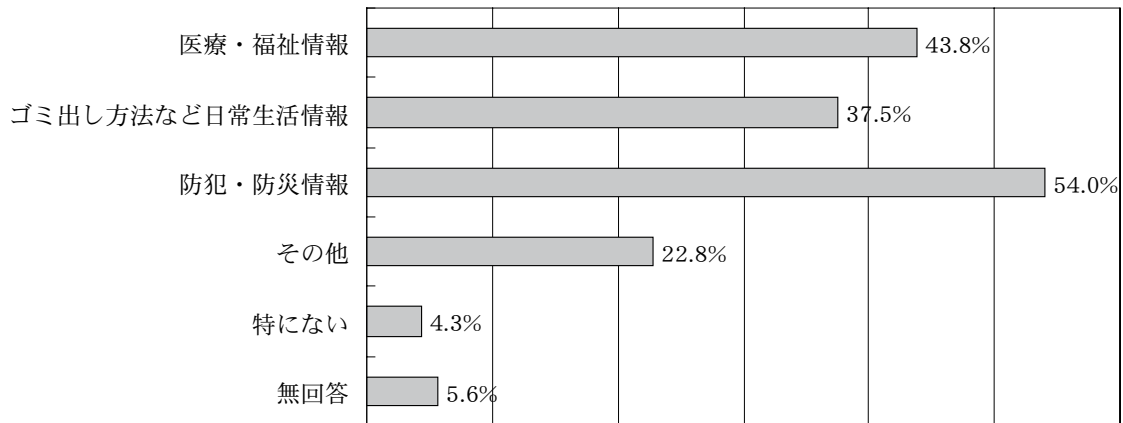


(9) 見守り対象者への情報提供

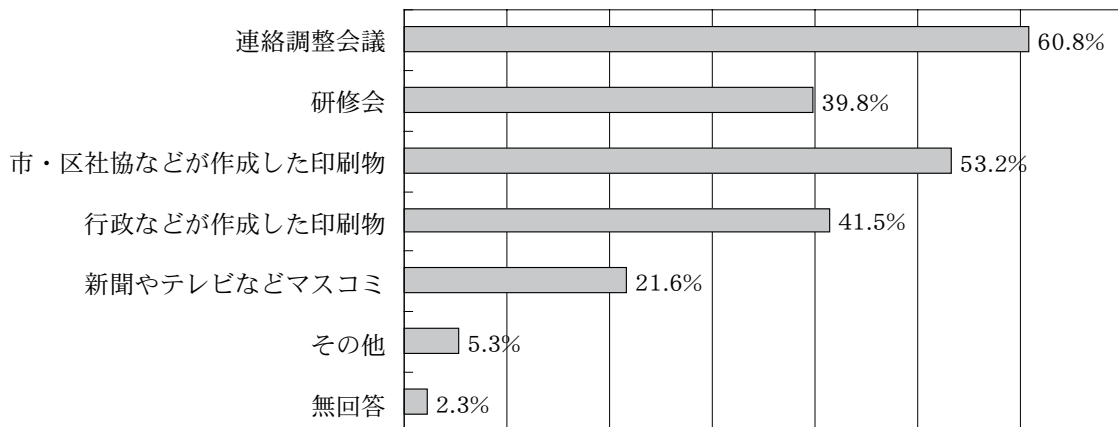
見守り対象者への情報提供はふれあいネットワーク事業において福祉協力員に期待されている役割のひとつである。図表34のとおり、43.8%の回答者が「医療・福祉情報」を見守り対象者に提供したと回答しているが、「医療・福祉情報」だけでなく、「防犯・防災情報」(54%)や「ごみ出し方法などの日常生活情報」(37.5%)を提供している福祉協力員も多いことがわかる。

また、図表35のとおり、対象者に提供した情報の入手方法としては、「連絡調整会議」(60.8%)や「市・区社協などが作成した印刷物」(53.2%)という回答が比較的目立っており、情報の入手先としては、図36のとおり、55.3%の回答者が「校(地)区社協関係者」をあげている。

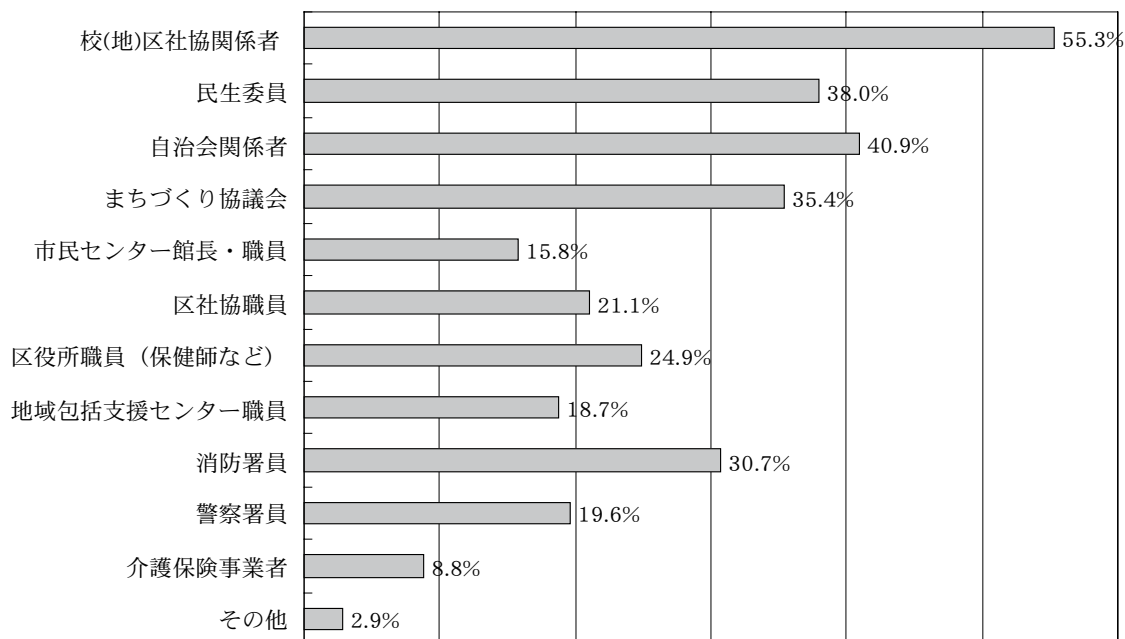
図表34 見守り対象者への情報提供



図表35 提供した情報の入手方法



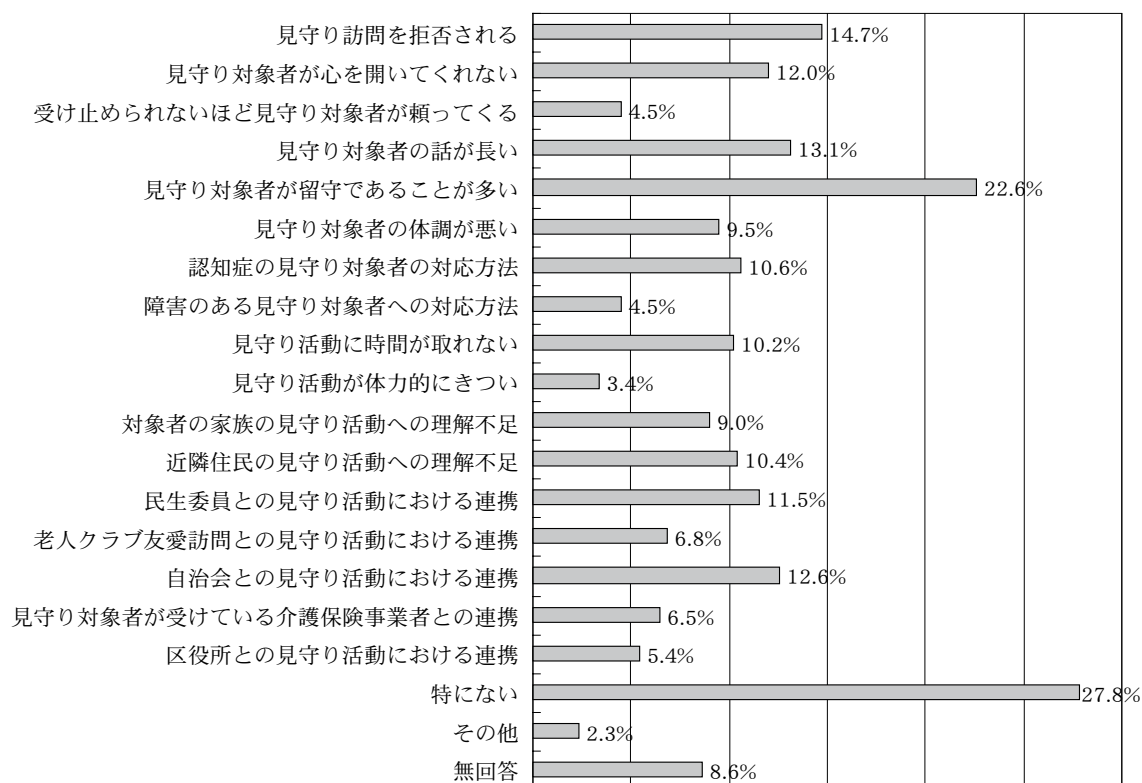
図表36 提供した情報の入手先



(10) 見守り活動において困っていること

見守り活動において困っている点を1つ以上選んだ回答者は、全体の63.6%である。図表37のとおり、その具体的な内容としては、「見守り対象者が留守であることが多い」という回答が最も多く、22.2%の回答者が選んでいる。対象者が比較的元気な場合、外出することが多く、訪問のタイミングが合わないのではないかと考えられる。

図表37 見守り活動で困っていること



また、「訪問を拒否される」(14.7%)という回答や「見守り対象者が心を開いてくれない」という回答(12%)が比較的多く、対象者との関係づくりがうまくいかないケースも少なくないことがうかがえる。他方では、「見守り対象者の話が長い」(13.1%)という回答も比較的多く、対象者との適度な距離を保つことに苦慮している福祉協力員も少なくないものと思われる。

そのほか、「自治会との連携」(12.6%)、「民生委員との連携」(11.5%)など、他の機関・団体との連携がうまく図れないことを問題点としてあげる回答者も比較的多いようであるが、いずれにしても、困っていることはいくつかの点に集約されるわけではなく、多様な問題が指摘されていると言える。

3 助け合い活動について

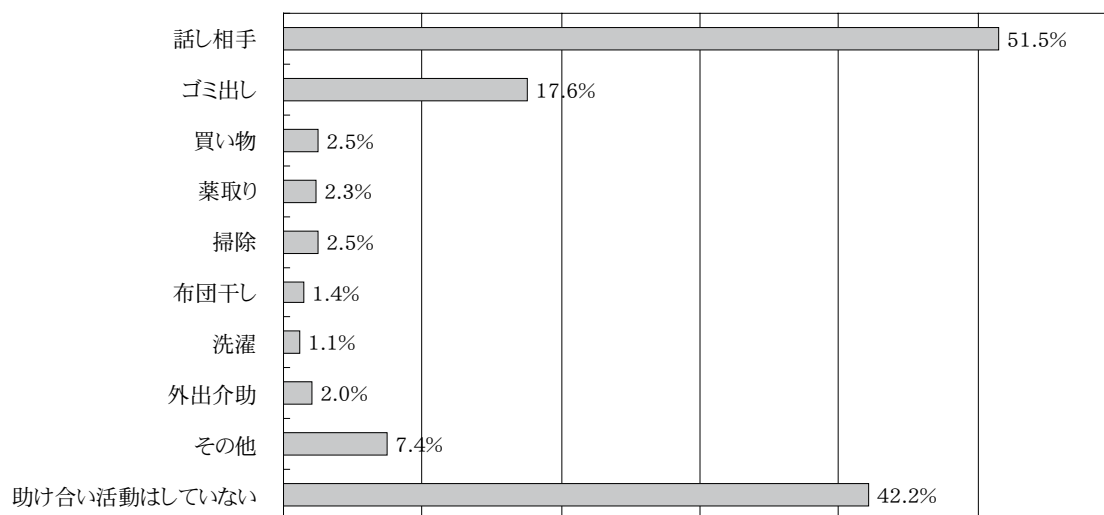
(1) 助け合い活動の内容と頻度

図38のとおり、何らかの助け合い活動を行っている回答者は全体の57.8%である。活動内容としては「話し相手」が最も多く、回答者の51.5%が行っている。「ごみ出し」も17.6%の回答者が行っており、比較的多いが、買い物や掃除など、その他の活動を行っているケースは少ない。

また、月あたりの活動の回数について見てみると、図表39、40のとおり、「話し相手」をした回数(対象者が複数の場合は合計した回数)は「月に5回以下」が83.8%で、「ゴミ出し」も「月に5回以下」が71.8%を占める。

助け合い活動を行っている回答者の数を図表41で地域別(区別)に見ると、助け合い活動を行っている回答者の割合は、小倉北区(70.9%)、門司区(65.5%)で比較的高くなっていることがわかる。

図表38 助け合い活動の内容



図表39 「話し相手」の回数（回/月）

1回～5回	191	83.8%
6回～10回	17	7.5%
11回～15回	1	0.4%
16回～20回	3	1.3%
21回以上	1	0.4%
回数不明	15	6.6%
合計	95	100.0

図表40 「ゴミ出し」の回数（回/月）

1回～5回	56	71.8%
6回～10回	16	20.5%
回数不明	6	7.7%
合計	78	100.0

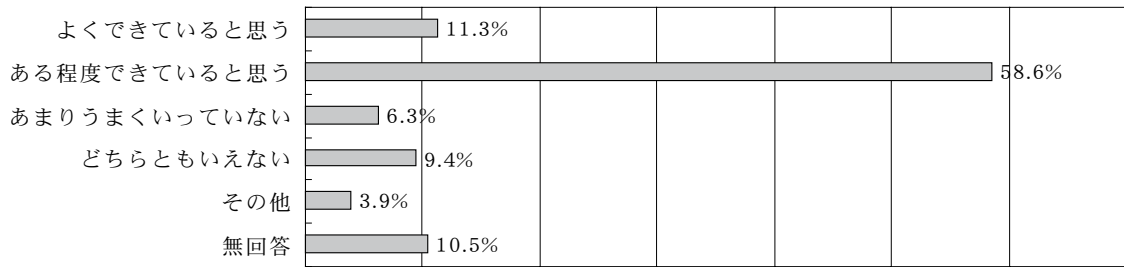
図表41 地域別（区別）にみた助け合い活動の活動状況

	助け合い活動		合計
	している	していない	
門司区	40 65.6%	21 34.4%	61 100.0%
小倉北区	39 70.9%	16 29.1%	55 100.0%
小倉南区	45 54.9%	37 45.1%	82 100.0%
戸畑区	26 57.8%	19 42.2%	45 100.0%
八幡東区	31 50.8%	30 49.2%	61 100.0%
八幡西区	52 57.8%	38 42.2%	90 100.0%
若松区	22 47.8%	24 52.2%	46 100.0%
合計	255 58.0%	185 42.0%	440 100.0%

(2) 助け合い活動の達成度

図表42のとおり、助け合い活動を行っている回答者のうち、69.9%の回答者が助け合い活動について「よくできている」あるいは「ある程度できている」と肯定的に評価している。しかし、2-(5)でみた見守り活動の効果について肯定的に評価している回答者の割合（84.2%）と比較すると、助け合い活動に対する評価は少し低いようである。

図表42 助け合い活動の達成度

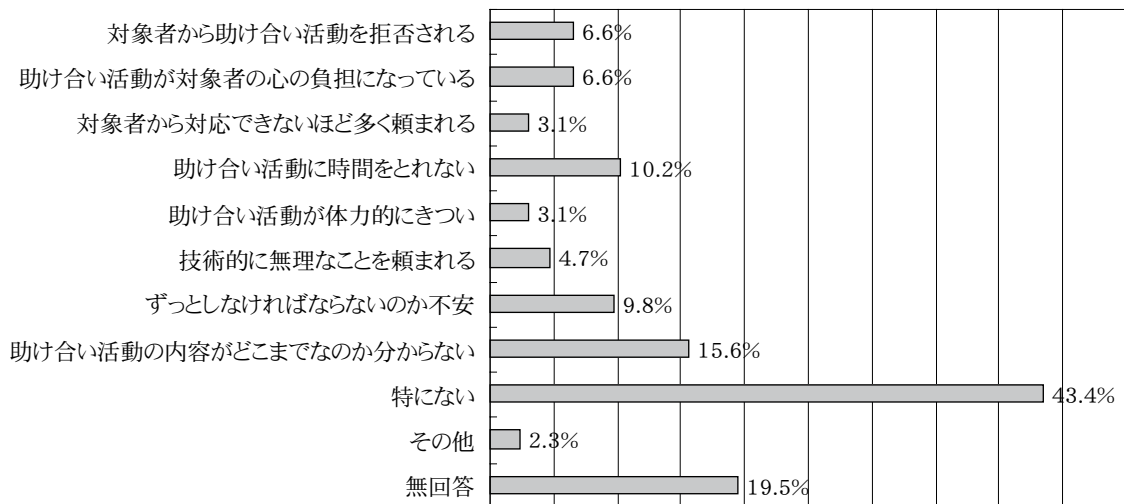


(3) 助け合い活動で困っていること

図表43のとおり、何らかの助け合い活動を行っている回答者のうち、助け合い活動について困っていることのある回答者は37.1%（100%から「特にない」43.4%、「無回答」19.5%を引いた数字）である。困っていることが「特にない」という回答は43.3%で、見守り活動について困っていることがないと答えた回答者の割合（27.8%）よりも高い比率となっている。

困っていることの内容としては、「助け合い活動の内容がどこまでなのかわからない」という回答が最も多い。この回答を選んだ回答者は、助け合い活動を行っている回答者の15.6%であるが、助け合い活動を行っており、かつ困っていることがあると答えた回答者の中では42.1%を占めている。そのほか、「助け合い活動に時間をとれない」、「ずっとしなければならないのか不安」といった回答も比較的多くなっている。

図表43 助け合い活動で困っていること

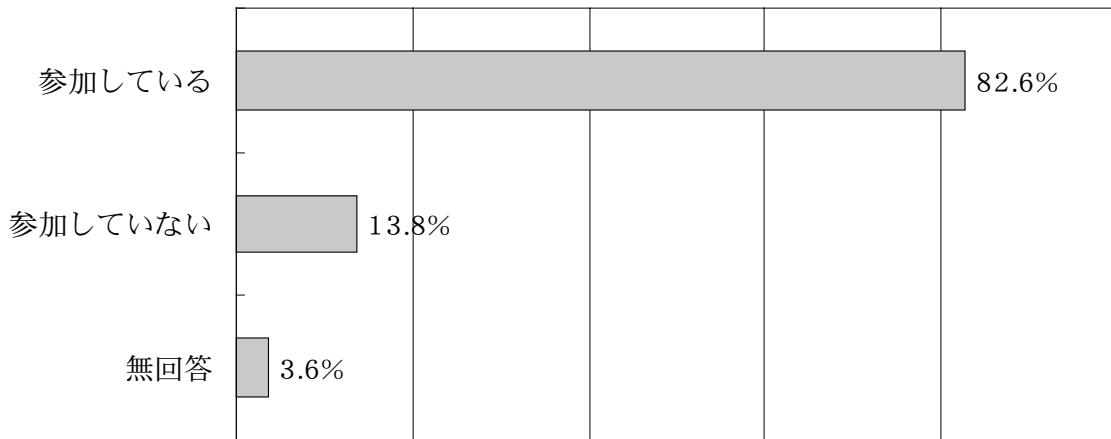


4 連絡調整会議について

(1) 連絡調整会議への参加

図表44のとおり、ふれあいネットワーク事業における「話し合いのしくみ」である連絡調整会議に参加している回答者は82.6%である。また、図表45で連絡調整会議への参加状況を地域別（区別）に見ると、参加していない回答者の割合は八幡東区で39.3%と最も高くなっている。

図表44 連絡調整会議への参加



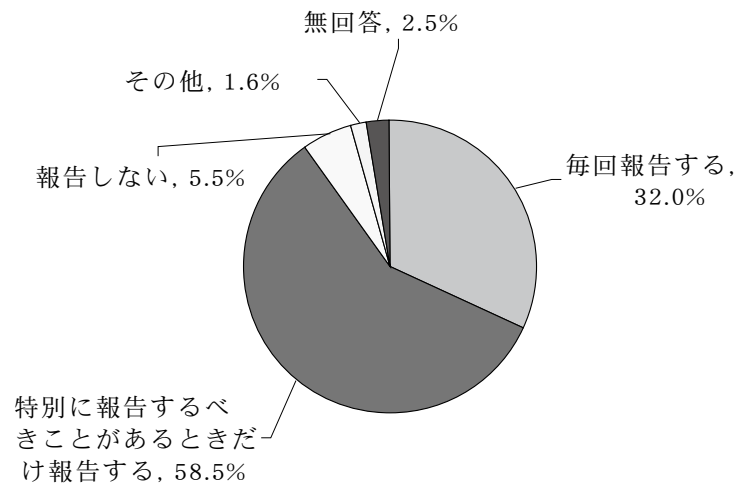
図表45 地域別（区別）にみた連絡調整会議の参加状況

	連絡調整会議			合計
	参加している	参加していない	無回答	
門司区	54 88.5%	6 9.8%	1 1.6%	61 100.0%
小倉北区	40 72.7%	12 21.8%	3 5.5%	55 100.0%
小倉南区	71 86.6%	7 8.5%	4 4.9%	82 100.0%
戸畑区	41 91.1%	3 6.7%	1 2.2%	45 100.0%
八幡東区	34 55.7%	24 39.3%	3 4.9%	61 100.0%
八幡西区	84 93.3%	5 5.6%	1 1.1%	90 100.0%
若松区	41 89.1%	4 8.7%	1 2.2%	46 100.0%
合計	365 83.0%	61 13.9%	14 3.2%	440 100.0%

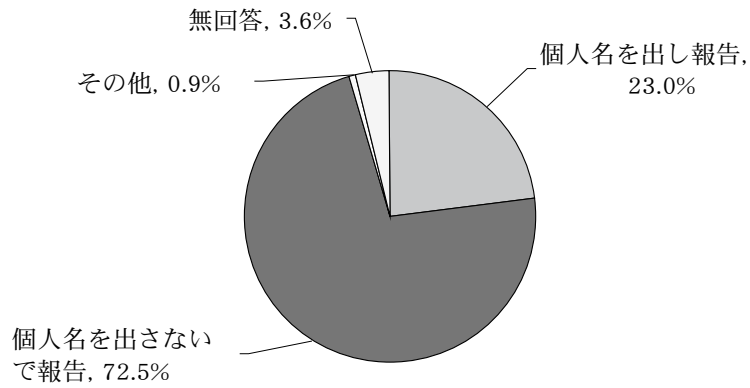
(2) 連絡調整会議での見守り活動の報告

図表46のとおり、連絡調整会議に参加している回答者のうち、会議では「見守り活動の報告を毎回行う」と答えた回答者は32%で、「特別に報告すべきことがあるときだけ報告する」と答えた回答者は58.5%である。また、図表47のとおり、連絡調整会議で見守り活動の報告を行っている回答者のうち、72.5%が個人名を出さないで報告し、23.0%が個人名を出して報告している。報告内容としては、図表48より、「対象者の入院や入所などについて」や「対象者本人が申し出た相談や要望」が比較的多いことがわかる。

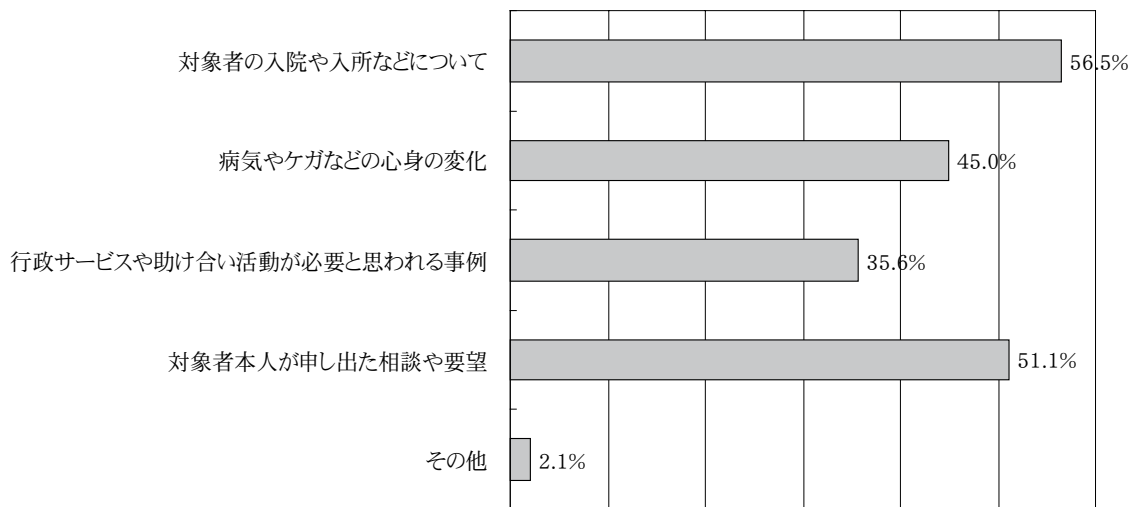
図表46 連絡調整会議での報告



図表47 連絡調整会議での報告時の個人名



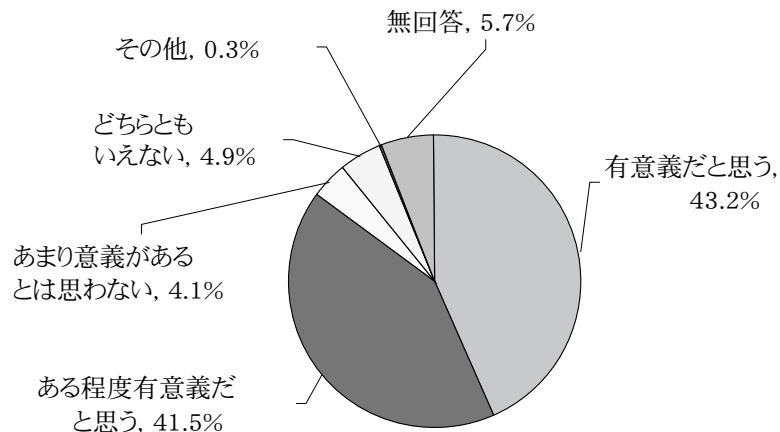
図表48 連絡調整会議での報告内容



(3) 連絡調整会議の意義

図表49のとおり、連絡調整会議に参加している回答者の中で、連絡調整会議が「有意義だと思う」あるいは「ある程度有意義だと思う」と答えた回答者は、合わせて84.7%であり、会議に参加している福祉協力員は概ね会議の意義を認めていることがわかる。

図表49 連絡調整会議の意義

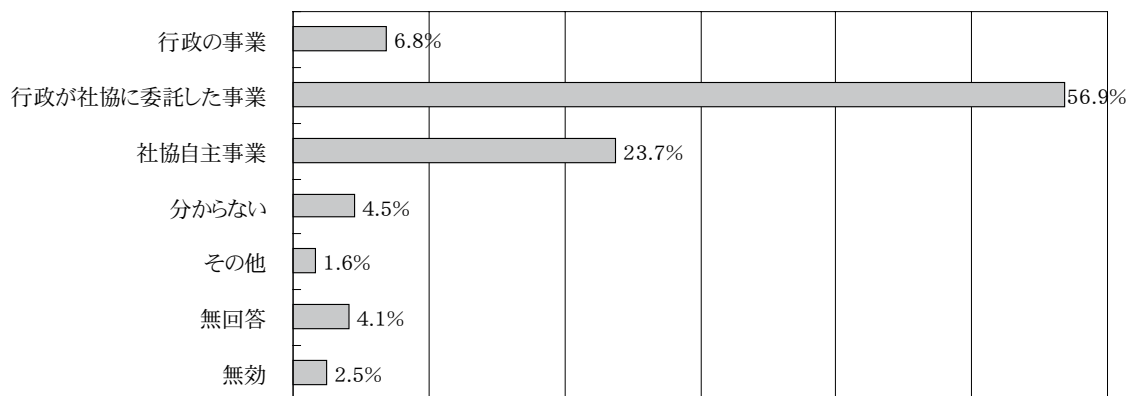


5 活動のやりがいと負担感

(1) ふれあいネットワークの実施主体

ふれあいネットワーク事業は社会福祉協議会の自主事業であるが、図表50のとおり、そのように認識している回答者は23.7%に止まり、「行政が社協に委託した事業」だと思っている回答者が56.9%で最も多い。これに「行政の事業」だと思っている6.8%の回答者を合わせると、63.7%の回答者が、ふれあいネットワーク事業は行政の事業であると考えていることになる。

図表50 ふれあいネットワーク事業の実施主体

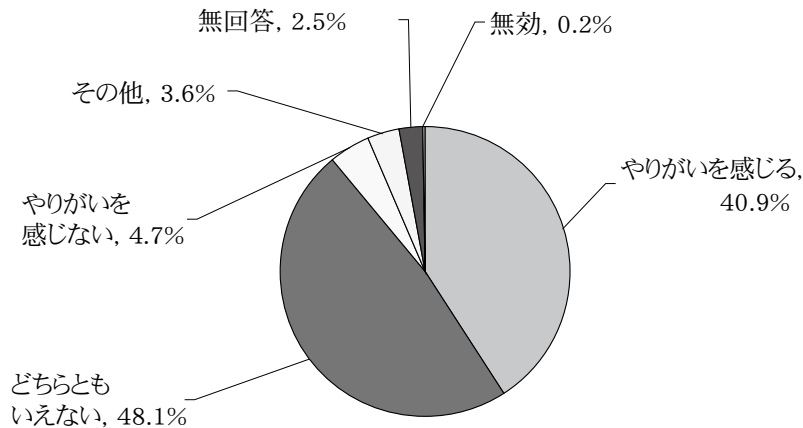


(2) ふれあいネットワーク事業のやりがい

ふれあいネットワーク事業にやりがいを感じるかどうかについては、図表51のとおり、回答者全体では「やりがいを感じる」という回答が40.9%ある一方で、「どちらともいえない」という回答も48.1%ある。また、図表52より、地域別（区別）に見ると、「やりがいを感じる」という

回答の比率は、小倉南区、門司区でそれぞれ52.4%、49.2%と比較的高くなっているのに対して、八幡東区では24.6%と、他地域よりも低い比率となっている。

図表51 ふれあいネットワーク事業のやりがい



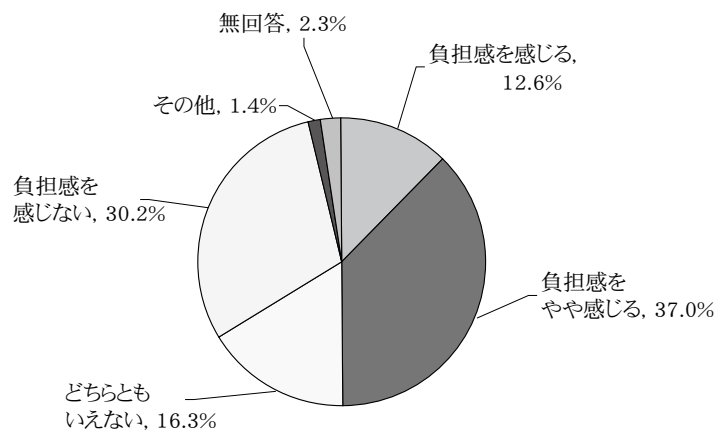
図表52 地域別（区別）にみた福祉協力員のやりがい

	やりがいを 感じる	やりがいを 感ぜぬ	どちらとも いえない	その他	無回答	合計
門司区	30 49.2%	2 3.3%	27 44.3%	2 3.3%	0 .0%	61 100.0%
小倉北区	20 36.4%	3 5.5%	25 45.5%	4 7.3%	3 5.5%	55 100.0%
小倉南区	43 52.4%	4 4.9%	28 34.1%	2 2.4%	5 6.1%	82 100.0%
戸畑区	19 42.2%	3 6.7%	21 46.7%	1 2.2%	1 2.2%	45 100.0%
八幡東区	15 24.6%	6 9.8%	36 59.0%	2 3.3%	2 3.3%	61 100.0%
八幡西区	34 37.8%	1 1.1%	50 55.6%	4 4.4%	1 1.1%	90 100.0%
若松区	18 39.1%	2 4.3%	25 54.3%	1 2.2%	0 .0%	46 100.0%
合計	179 40.7%	21 4.8%	212 48.2%	16 3.6%	12 2.7%	440 100.0%

(3) 福祉協力員の負担感

図表53のとおり、ふれあいネットワーク事業で福祉協力員の役割を担うことの負担感については、「負担を感じる」あるいは「負担をやや感じる」と答えた回答者の割合は49.6%で、負担を感じていない回答者の割合（30.2%）を上回っている。また、図表54により、地域別（区別）に見ると、「負担を感じる」あるいは「負担をやや感じる」と答えた回答者の割合は、門司区（60.7%）、小倉北区（56.4%）、若松区（58.7%）で比較的高く、戸畑区（33.4%）、八幡東区（40.9%）で低くなっている。

図表53 福祉協力員の負担感



図表54 地域別（区別）にみた福祉協力員の負担感

	負担感を感ずる	負担感を感ずる、やや感ずる	負担感を感ずらない	どちらともいえない	その他	無回答	合計
門司区	5 8.2%	32 52.5%	17 27.9%	7 11.5%	0 .0%	0 .0%	61 100.0%
小倉北区	11 20.0%	20 36.4%	14 25.5%	8 14.5%	0 .0%	2 3.6%	55 100.0%
小倉南区	13 15.9%	27 32.9%	25 30.5%	11 13.4%	0 .0%	6 7.3%	82 100.0%
戸畑区	3 6.7%	12 26.7%	19 42.2%	8 17.8%	2 4.4%	1 2.2%	45 100.0%
八幡東区	6 9.8%	19 31.1%	17 27.9%	16 26.2%	2 3.3%	1 1.6%	61 100.0%
八幡西区	9 10.0%	34 37.8%	29 32.2%	16 17.8%	1 1.1%	1 1.1%	90 100.0%
若松区	9 19.6%	18 39.1%	12 26.1%	6 13.0%	1 2.2%	0 .0%	46 100.0%
合計	56 12.7%	162 36.8%	133 30.2%	72 16.4%	6 1.4%	11 2.5%	440 100.0%

Ⅲ 調査結果のまとめと小地域福祉活動の今後の課題

1 福祉協力員への就任について

福祉協力員となった経緯としては、「自治会で役についたから」(24.4%)や「自治会からの依頼・推薦で」(24.4%)という回答が多い。この二つの回答で回答者全体の48.8%を占めることから、全体の傾向としては、福祉協力員への就任に何らの形で自治会が関わっていることが多いと言える。ただし、この点については地域差が大きい。八幡東区の場合、上記の二つの回答で83.6%を占め、自治会との関わりが福祉協力員となる主なきっかけになっているのに対して、戸畑区の場合、上記の二つの回答は6.6%に止まっている。戸畑区では、かわりに、「校(地)区社協役員・福祉協力員から誘われて」(28.9%)、「民生委員からの推薦・依頼で」(22.1%)、「民生委員になったから」(11.1%)などの回答が多く、校区社協や民生委員との関わりが福祉協力員となる主なきっかけになっていることがわかる。

予備調査では、ふれあいネットワーク事業が自治会組織と一体となって進められている地域と、校区社会福祉協議会がほぼ単独で進めている地域が見られた。上述のとおり、八幡東区の場合、回答者の大部分が自治会との関わりがきっかけとなって福祉協力員に就任していることや、八幡東区の回答者の82%が「町内会長等」を兼務していることから、自治会と一体となって活動を進めている校区が多いことがうかがえる。これに対して、戸畑区の場合、民生委員との連携の下に校区社会福祉協議会が中心となり、活動を進めている校区が多いものと思われる。また、八幡東区の場合、見守り対象者の情報を自治会から得ていると答えた回答者が多く、戸畑区では、民生委員から得ていると答えた回答者が多いことから、このことは裏づけられる。

予備調査から、ふれあいネットワーク事業の実施体制は、地域社会の諸団体の構成や関係のあり方に規定されていることがわかったが、北九州市の場合、そうした地域社会の特徴は、区ごとに現れる傾向があるため、ふれあいネットワーク事業の実施体制も区ごとに共通した特徴を見出せるのかもしれない。いずれにしても、ふれあいネットワーク事業は、区によって、また、各校区によって様々な体制・方法で実施されており、その多様性を把握した上で、それぞれの長所・短所を整理し、課題を検討していく必要があるだろう。

2 見守り活動について

予備調査を行った4校区の見守り対象者の範囲は基本的に一人暮らしの高齢者や高齢者だけの世帯を中心とするものであったが、全校区の福祉協力員を対象にした今回のアンケート調査でも、福祉協力員が主に「一人暮らしの高齢者」と「高齢者夫婦世帯」を対象に見守り活動を行っていることが確認できた。また、調査結果から、福祉協力員は自分が担当する10人前後の見守り対象者に対して月に1～2回定期的な訪問を行い、必要に応じて追加で訪問するというのが、平均的な形であることがわかった。

どこからの情報によって対象者を把握しているのか、という点については、全体としては「民生委員からの情報」と「自治会からの情報」が中心であり、予備調査でも確認されていたとおり、「行政からの情報」は非常に少ないのが特徴である。また、地域別(区別)に見ると、小倉南区、八幡東区、小倉南区では、「自治会からの情報」という回答が多いのに対して、八幡西区や戸畑区では「民生委員からの情報」という回答が他の地域より目立つなど、地域によって偏りが見ら

れる。対象者の把握については、限られた情報源だけに頼ると、潜在的な対象者を発見できなくなる可能性がある。たとえば、町内会の情報だけに頼ると、町内会加入者しか把握できなくなる可能性があるだろう。したがって、行政を含め地域の関係団体・機関との連携を強め、できるだけ多様な情報源からの情報が福祉協力員に届けられるような仕組みを考えていくことが必要であろう。そのほか、対象者の情報把握方法については、「前任の福祉協力員からの引継ぎ」という回答が少ない（17.8%）ことも気になる。個人情報保護に配慮しながら、対象者の情報を継続的に蓄積し、継承していく仕組みも必要ではないだろうか。

見守り活動による対象者のニーズ把握については、回答者の57.8%が福祉ニーズを発見したり、相談を受けたりしたことがあると答えており、ふれあいネットワーク事業の成果を示している。ただ、この点についても地域差が見られ、最も高い八幡西区（70%）と最も低い戸畑区（42.2%）では30%ほどの開きがある。この地域差の背景についても今後検討していく必要があるだろう。

発見した福祉ニーズや相談への対応としては、回答者の72%が「民生委員に相談」という回答を選んでおり、福祉協力員と民生委員のつながりの強さがうかがえる。行政や専門機関に対しては民生委員を通して連絡することもあると思われ、そのためか、直接、行政や地域包括支援センターに相談したことがあると回答した福祉協力員は約3割程度に止っている。また、介護保険事業者、市民センター、NPO団体などについてはさらに割合は低下し、対応への満足度も民生委員等と比較するとやや低くなっている。福祉協力員にとって民生委員は最も重要な相談先のひとつであるが、福祉協力員が直接、連絡・相談できる相手をさらに広げていくことが検討されてもよいだろう。

見守り活動において困っていることとして最も多かったのは、「見守り対象者が留守であることが多い」という回答である。比較的元気な対象者が多いため、外出することが多く、訪問のタイミングが合わないのではないかと考えられる。また、「訪問を拒否される」という回答や「見守り対象者が心を開いてくれない」という回答が比較的多く、対象者との関係づくりがうまくいかないケースも少なくないことがうかがえる。他方では、「見守り対象者の話が長い」という回答も比較的多く、対象者との適度な距離を保つことに苦慮している福祉協力員も少なくないものと思われる。関わりが難しいケースや孤独感が強い対象者を受け止める場合には、福祉協力員だけで対応するのではなく、関係機関や近隣所などと連携してネットワークで見守っていく取り組みが必要になるだろう。

3 助け合い活動について

予備調査での福祉協力員へのインタビューでは、助け合い活動の具体的事例を聞くことが多くなかったため、助け合い活動はあまり展開されていないのではないかと予想もあったが、今回のアンケート調査では半数以上（57.8%）の回答者が助け合い活動を行っているという回答しており、かなりの助け合い活動の展開が見られることが確認できた。地域別にみると、特に、小倉北区（70.9%）、門司区（65.5%）で助け合い活動をしている回答者の割合が高かった。ただし、全体として、助け合い活動の内容としては「話し相手」が中心であり、「ごみ出し」は比較的多いものの、他の活動を行っている福祉協力員は少なかった。

また、予備調査では、助け合い活動が「単発的な支援にとどまり、福祉ニーズを抱えている対

象者に対する継続的な活動」となっていないことや、福祉協力員からのアプローチが漠然とした手伝いの呼びかけになっていることから、全体として助け合い活動につながっていない状況が見てとれた。この点については、福祉ニーズを発見したり相談を受けたりしたことのある回答者のうち、どれくらいの回答者が助け合い活動を行っているかを示した図表55を見てほしい。福祉ニーズを発見したり、相談を受けたりした経験があると回答した福祉協力員のうち、約3割が助け合い活動を行っていない。また、逆に福祉ニーズを発見したり相談を受けたりしたことがないと回答した福祉協力員のうち、約4割が助け合い活動を行っていると回答している。この表だけで正確なことが言えるわけではないが、福祉ニーズの発見が必ずしも助け合い活動につながっておらず、また、助け合い活動が必ずしも把握した福祉ニーズに基づいて行われているわけではないことを示しているとも解釈できよう。

図表55 福祉ニーズの発見や相談と助け合い活動

		助け合い活動		合計
		している	していない	
福祉 ニーズの 発見や 相談	ある	181 70.7%	75 29.3%	256 100.0%
	ない	73 41.5%	103 58.5%	176 100.0%
	無回答	2 18.2%	9 81.8%	11 100.0%
合計		256 57.8%	187 42.2%	443 100.0%

もちろん、福祉協力員が福祉ニーズを発見したら、必ず自らが助け合い活動をしなければならないというわけではない。発見した福祉ニーズを、民生委員をはじめとする関係機関につなげることに福祉協力員の役割を限定する考え方もあるだろう。しかし、ふれあいネットワーク事業が福祉ニーズを抱えている対象者に対する継続的な支援活動を目指すのであれば、関係機関につなげた後、それらの関係機関とともに福祉協力員がどのように継続的に関わっていけるのかが課題となる。その場合には、多様な関係機関や専門職、ボランティア団体、近隣所などが連携して個別支援のネットワークを形成し、福祉協力員もそのネットワークの中で継続的な見守りや助け合い活動を行っていくような取り組みが必要になるのではないかと。

そして、以上のような個別支援のネットワークの形成は、福祉協力員の助け合い活動に対する不安を取り除くことにも寄与するだろう。助け合い活動について福祉協力員が困っていることとしては、「助け合い活動の内容がどこまでかわからない」、「助け合い活動に時間がとれない」、「ずっとしなければいけないか不安」といったものが目立っている。上述の多様な主体が関わる個別支援のネットワークの中で目標が共有され、その中で福祉協力員の役割も明確化されれば、助け合い活動に対する福祉協力員の不安も軽減されるのではないだろうか。

4 連絡調整会議について

連絡調整会議については、回答者の82.6%が参加し、会議に参加している回答者の84.7%がその意義を認めている。地域別（区別）にみると、他区と比較して八幡東区の参加率（55.7%）が低くなっていることがわかる。上述のとおり、八幡東区は、自治会との密接な連携のもとに、あるいは自治会と組織的に一体化して活動を進めている校区が多いと思われ、そのことが連絡調整会議の参加率にも影響を与えているものと思われる。ただ、その場合に、なぜ参加率が低くなるのか、今回の調査からはその具体的な理由はわからない。

また、連絡調整会議では、「毎回報告する」と「特別に報告するべきことがあるときだけ報告する」を合わせ、回答者の90.5%が何らかの形で見守り活動の報告を行っている。予備調査での福祉協力員へのインタビューでは、連絡調整会議における見守り活動の報告に個人情報が含まれていることを危惧する声が聞かれた。実際、今回の調査から、連絡調整会議に参加している回答者の23%が個人名を出して報告していることがわかった。もちろん、個人名を出した報告が個人情報保護の観点から直ちに問題となるわけではないが、第1章からわかるように、地域内外からの出席者の多い連絡調整会議で個人情報をどのように取り扱えばよいのか、多くの校区が苦慮している。この問題に対しては、対象者ごとの個別支援のネットワークの構成員（福祉協力員だけでなく、民生委員や専門職、近隣所、家族などを含む）が小グループで情報共有や支援方法の検討を行う新たな「話し合いのしくみ」を連絡調整会議とは別に設けることが検討されてよいのではないだろうか。そして、連絡調整会議にせよ、個別支援のための新たな話し合いのしくみにせよ、情報の取り扱いについては何らかのルール化が必要であろう。

5 負担感とやりがいについて

福祉協力員としての活動の負担感については、何らかの負担を感じている回答者の割合（49.6%）が、感じていない回答者の割合（30.2%）を上回っている。また、活動にやりがいを感じているという回答が40.9%ある一方で、「どちらともいえない」という回答も48.1%と半数近くになる。全体として、負担を感じている福祉協力員や、なかなかやりがいを感じられない福祉協力員も少なくないことがわかる。また、負担感とやりがいについての地域別（地区別）データでは、自治会との関係が深いと思われる八幡東区でやりがいを感じていない回答者の割合が高いことや、助け合い活動を行っている回答者の割合が高い門司区や小倉北区で負担を感じている回答者の割合が高くなっていることなどが興味深い。今後、福祉協力員のやりがいや負担感の背景について具体的に検討していく必要がある。

最後に、ふれあいネットワーク事業の実施主体に関する福祉協力員の意識に触れておきたい。今回の調査から約6割の福祉協力員がふれあいネットワーク事業を「行政の事業」ないし「行政が社協に委託した事業」と考えていることがわかった。今後は、地域住民がふれあいネットワーク事業を住民主体の活動として捉え直していくことができるようにすることが重要である。

2 小地域福祉活動に関する校(地)区社協福祉協力員調査の単純集計結果

(1) 調査の手続き

調査基準日 平成19年12月末現在
 調査期間 平成20年2月1日～29日
 調査対象者 校(地)区社会福祉協議会福祉協力員
 調査方法 郵送法
 調査対象者数 770 (154校(地)区社協×5人)
 有効回収票 447(有効回収率 58.1%)
 集計総数 443

(2) 単純集計結果

質問及び回答選択肢	実数	構成比
問1 所属している校(地)区社協所在地		
門司区	61	13.8%
小倉北区	55	12.4%
小倉南区	82	18.5%
戸畑区	45	10.2%
八幡東区	61	13.8%
八幡西区	90	20.3%
若松区	45	10.4%
無回答	3	0.7%
合計 (以下省略)	442	100%
問2(1) 性別		
男性	169	38.1%
女性	273	61.6%
無回答	1	0.2%
問2(2) 年齢区分		
30歳から39歳	2	0.5%
40歳から44歳	2	0.5%
45歳から49歳	9	2.0%
50歳から54歳	20	4.5%
55歳から59歳	56	12.6%
60歳から64歳	83	18.7%
65歳から69歳	109	24.6%
70歳から74歳	91	20.5%
75歳から79歳	49	11.1%
80歳から84歳	17	3.8%
85歳から89歳	1	0.2%

質問及び回答選択肢	実数	構成比
90歳以上	1	0.2%
無回答	3	0.7%
問3 主たる職業		
無職	141	31.8%
会社員	23	5.2%
自営業	28	6.3%
主婦	220	49.7%
その他	26	5.9%
無回答	5	1.1%
問4 ふれあいネットワーク事業について説明を受けた（資料を読んだ）ことはありますか。該当するものを全て選んで下さい。		
研修会等で説明を受けた。	377	85.1%
資料を渡され読んだ。	279	63.0%
先輩の活動者に教えてもらった。	109	24.6%
説明や資料の提供を受けていない。	9	2.0%
その他	13	2.9%
無回答	2	0.5%
問5 校(地)区社協での役職は何ですか。該当するものを全て選んで下さい。		
福祉協力員	443	100%
ニーズ対応員	16	3.6%
会長	15	3.4%
副会長	44	9.9%
事務局長・書記	18	4.1%
ふれあいネットワーク部会長	23	5.2%
その他	32	7.2%
問6 福祉協力員を何年されていますか。		
1年未満	29	6.5%
1年以上2年未満	46	10.4%
2年以上3年未満	47	10.6%
3年以上5年未満	72	16.3%
5年以上10年未満	152	34.3%
10年以上	93	21.0%
その他	1	0.2%
無回答	2	0.5%
無効	1	0.5%
問7 校(地)区社協以外で兼任している地域の役職はありますか。該当するもの全て選んで下さい。		
自治連合会会長（おおよそ小学校区の自治会）	5	1.1%
町内会長・自治区会長・自治委員協議会長	108	24.4%

質問及び回答選択肢	実数	構成比
地区民児協会長（総務）	6	1.4%
民生委員児童委員	33	7.4%
まちづくり協議会理事	95	21.4%
老人クラブ会員	101	22.8%
兼務していない	108	24.4%
その他	70	15.8%
無回答	36	8.1%
問8 どのような経緯で福祉協力員になりましたか。該当するものを1つ選んで下さい。		
自薦で	16	3.6%
校(地)区社協の公募に応募して	8	1.8%
校(地)区社協役員・福祉協力員から誘われて	83	18.7%
自治会で役についたから	108	24.4%
民生委員になったから	20	4.5%
まちづくり協議会で役についたから	10	2.3%
老人クラブの友愛訪問活動をしていたから	9	2.0%
自治会からの依頼・推薦で	108	24.4%
民生委員からの依頼・推薦で	36	8.1%
まちづくり協議会からの依頼・推薦で	13	2.9%
婦人会からの依頼・推薦で	10	2.3%
市民センターからの依頼・推薦で	3	0.7%
区社協やボランティアセンターでの紹介で	1	0.2%
ボランティア養成講座などを受けて	4	0.9%
その他の団体からの推薦で	3	0.7%
その他	8	1.8%
無回答	3	0.7%
問9 現在、見守り活動を対象者一人に対して月に何回くらい行っていますか。該当するものを1つ選んで下さい。		
週1回	29	6.5%
月2回	126	28.4%
月1回	189	42.7%
その他	84	19.0%
無回答	15	3.4%
問10(1) 現在、月1回以上の見守り活動をどのような対象者に行っていますか。該当するものを全て選んで下さい。		
一人暮らし高齢者	373	84.2%
高齢者夫婦世帯（二人ともある年齢以上）	153	34.5%
高齢者夫婦世帯（一人がある年齢以上）	58	13.1%
昼間だけ高齢者世帯	70	15.8%
障害のある人の世帯	63	14.2%

質問及び回答選択肢	実数	構成比
単身で子育て中の世帯	16	3.6%
その他	26	5.9%
問10(2) 月1回以上の見守り活動を行う対象者の人数は何人ですか。		
1人～10人	271	72.7%
11人～20人	58	15.5%
21人～30人	15	4.0%
31人～40人	3	0.8%
41人～50人	4	1.1%
51人以上	13	3.5%
無回答	9	2.4%
問11 見守り活動の対象者は、どのようにして把握しましたか。該当するものを全て選んで下さい。		
校(地)区社協からの情報	105	23.7%
自治会からの情報	186	42.0%
民生委員からの情報	206	46.5%
自分で調査した	95	21.4%
対象者を昔から知っていた	111	25.1%
前任の福祉協力員からの引継ぎ	79	17.8%
行政からの情報	12	2.7%
近隣住民からの情報	116	26.2%
その他	17	3.8%
無回答	6	1.4%
問12 見守り活動によって孤独死の防止など安否確認に効果が上がっていると思いますか。該当するものを1つ選んで下さい。		
効果があると思う	154	34.8%
ある程度効果があると思う	219	49.4%
効果はないと思う	10	2.3%
どちらともいえない	41	9.3%
その他	2	0.5%
無回答	14	3.2%
無効	3	0.7%
問13 見守り活動において対象者の困っていること（福祉ニーズ）を見つけたり、相談されたりしたことがありますか。該当するものを1つ選んで下さい。		
ある → (問14へ)	256	57.8%
ない → (問15へ)	176	39.7%
無回答	10	2.3%
無効	1	0.2%

質問及び回答選択肢	実数	構成比
問14(1) (問13)で「1 ある」と答えた方にお尋ねします。見つけた福祉ニーズや相談をどのように対応しましたか。該当するものを全て選んで下さい。		
他に相談せず自分が対応	21	8.2%
校(地)区社協役員に相談	108	42.2%
ニーズ対応チームに相談	74	28.9%
民生委員に相談	186	72.7%
自治会に相談	106	41.4%
市民センターに相談	49	19.1%
区役所(保健師など)に相談	87	34.0%
地域包括支援センターに相談	83	32.4%
介護保険事業者に相談	56	21.9%
ボランティア団体・NPO団体に相談	27	10.5%
隣近所に相談	100	39.1%
対象者の家族に相談	99	38.7%
特に何もしなかった	1	0.4%
問14(2) 問14の(1)で「校(地)区社協役員」に相談した方にお尋ねします。その対応をどのように思いましたか。該当するものを1つ選んで下さい。		
満足	24	22.2%
おおむね満足	64	59.3%
どちらともいえない	13	12.0%
やや不満	6	5.6%
不満	1	0.9%
問14(3) 問14の(1)で「ニーズ対応チーム」に相談した方にお尋ねします。その対応をどのように思いましたか。該当するものを1つ選んで下さい。		
満足	17	23.0%
おおむね満足	40	54.1%
どちらともいえない	13	17.6%
やや不満	4	5.0%
不満	0	0.0%
問14(4) 問14の(1)で「民生委員」に相談した方にお尋ねします。その対応をどのように思いましたか。該当するものを1つ選んで下さい。		
満足	68	36.6%
おおむね満足	89	47.8%
どちらともいえない	16	8.6%
やや不満	6	3.2%
不満	61	3.2%

質問及び回答選択肢	実数	構成比
問14(5) 問14の(1)で「自治会」に相談した方にお尋ねします。その対応をどのように思いましたか。該当するものを1つ選んで下さい。		
満足	28	26.4%
おおむね満足	50	47.2%
どちらともいえない	17	16.0%
やや不満	7	6.6%
不満	3	2.8%
無回答	1	0.9%
問14(6) 問14の(1)で「市民センター」に相談した方にお尋ねします。その対応をどのように思いましたか。該当するものを1つ選んで下さい。		
満足	12	24.5%
おおむね満足	20	40.8%
どちらともいえない	14	28.6%
やや不満	2	4.1%
不満	1	2.0%
問14(7) 問14の(1)で「区役所（保健師など）」に相談した方にお尋ねします。その対応をどのように思いましたか。該当するものを1つ選んで下さい。		
満足	11	12.6%
おおむね満足	55	63.2%
どちらともいえない	18	20.7%
やや不満	0	0.0%
不満	2	2.3%
無回答	1	1.1%
問14(8) 問14の(1)で「地域包括支援センター」に相談した方にお尋ねします。その対応をどのように思いましたか。該当するものを1つ選んで下さい。		
満足	23	27.7%
おおむね満足	39	47.0%
どちらともいえない	15	18.1%
やや不満	5	6.0%
不満	1	1.2%
問14(9) 問14の(1)で「介護保険事業者」に相談した方にお尋ねします。その対応をどのように思いましたか。該当するものを1つ選んで下さい。		
満足	7	12.5%
おおむね満足	27	48.2%
どちらともいえない	15	26.8%
やや不満	3	5.4%
不満	4	7.1%

質問及び回答選択肢	実数	構成比
問14(10) 問14の(1)で「ボランティア団体・NPO団体」に相談した方にお尋ねします。その対応をどのように思いましたか。該当するものを1つ選んで下さい。		
満足	3	11.1%
おおむね満足	8	29.6%
どちらともいえない	15	55.6%
やや不満	0	0.0%
不満	1	3.7%
問14(11) 問14の(1)で「隣近所」に相談した方にお尋ねします。その対応をどのように思いましたか。該当するものを1つ選んで下さい。		
満足	22	22.0%
おおむね満足	51	51.0%
どちらともいえない	23	23.0%
やや不満	2	2.0%
不満	1	1.0%
無回答	1	1.0%
問14(12) 問14の(1)で「対象者の家族」に相談した方にお尋ねします。その対応をどのように思いましたか。該当するものを1つ選んで下さい。		
満足	16	16.2%
おおむね満足	39	39.4%
どちらともいえない	32	32.3%
やや不満	9	9.1%
不満	3	3.0%
問15 (問13)で「2 ない」と答えた方にお尋ねします。なぜ相談がないと思いますか。該当するものを1つ選んで下さい。		
対象者が元気で何も問題を抱えてないから	104	59.1%
相談などを受けるほど対象者と信頼関係がないから	19	10.8%
自分が相談を受ける役割にないから	7	4.0%
分からない	14	8.0%
その他	16	9.1%
無回答	13	7.4%
無効	3	1.7%
問16 見守り対象者に情報を教えたことがありますか。該当するものを全て選んで下さい。		
医療・福祉情報 → (問17へ)	194	43.8%
ゴミ出し方法など日常生活情報 → (問17へ)	166	37.5%
防犯・防災情報 → (問17へ)	239	54.0%
その他 → (問17へ)	101	22.8%
特にない → (問19へ)	19	4.3%
無回答	25	5.6%

質問及び回答選択肢	実数	構成比
問17 (問16) で何らかの情報を教えたことがあると答えた方にお尋ねします。		
(1) その情報をどのような機会に得ましたか。該当するものを全て選んで下さい。		
連絡調整会議	208	60.8%
研修会	136	39.8%
市・区社協などが作成した印刷物	182	53.2%
行政などが作成した印刷物	142	41.5%
新聞やテレビなどマスコミ	74	21.6%
その他 (_____)	18	5.3%
無回答	8	2.3%
(2) その情報を誰から得ましたか。該当するものを全て選んで下さい。		
校(地)区社協関係者	189	55.3%
民生委員	130	38.0%
自治会関係者	140	40.9%
まちづくり協議会	121	35.4%
市民センター館長・職員	54	15.8%
区社協職員	72	21.1%
区役所職員 (保健師など)	85	24.9%
地域包括支援センター職員	64	18.7%
消防署員	105	30.7%
警察署員	67	19.6%
介護保険事業者	30	8.8%
その他	10	2.9%
問19 見守り活動において困っていることがありますか。該当するものを全て選んで下さい。		
見守り訪問を拒否される	65	14.7%
見守り対象者が心を開いてくれない	53	12.0%
受け止められないほど見守り対象者が頼ってくる	20	4.5%
見守り対象者の話が長い	58	13.1%
見守り対象者が留守であることが多い	100	22.6%
見守り対象者の体調が悪い	42	9.5%
認知症の見守り対象者の対応方法	47	10.6%
障害のある見守り対象者への対応方法	20	4.5%
見守り活動に時間が取れない	45	10.2%
見守り活動が体力的にきつい	15	3.4%
対象者の家族の見守り活動への理解不足	40	9.0%
近隣住民の見守り活動への理解不足	46	10.4%
民生委員との見守り活動における連携	51	11.5%
老人クラブ友愛訪問との見守り活動における連携	23	6.8%
自治会との見守り活動における連携	56	12.6%

質問及び回答選択肢	実数	構成比
見守り対象者が受けている介護保険事業者との連携	29	6.5%
区役所（保健師・地域包括支援センターなど）との見守り活動における連携	24	5.4%
特になし	123	27.8%
その他	10	2.3%
無回答	38	8.6%
問20(1) どのような助け合い活動をしていますか。該当するものを全て選んで下さい。		
話し相手 → (問21)	228	51.5%
ゴミ出し → (問21)	78	17.6%
買い物 → (問21)	11	2.5%
薬取り → (問21)	10	2.3%
掃除 → (問21)	11	2.5%
布団干し → (問21)	6	1.4%
洗濯 → (問21)	5	1.1%
外出介助 → (問21)	9	2.0%
その他 → (問21)	33	7.4%
助け合い活動はしていない → (問22へ)	187	42.2%
問20(2) 話し相手のおおよその回数は月にどの程度ですか。対象者が複数の場合は、合計してください。		
1回～5回	191	83.8%
6回～10回	17	7.5%
11回～15回	1	0.4%
16回～20回	3	1.3%
21回以上	1	0.4%
回数不明	15	6.6%
問20(3) ゴミ出しのおおよその回数は月にどの程度ですか。対象者が複数の場合は、合計してください。		
1回～5回	56	71.8%
6回～10回	16	20.5%
回数不明	6	7.7%
問21 (問20) で何らかの助け合い活動を行っているとお答えした方にお尋ねします。		
(1) 助け合い活動は、良くできていると思いますか。該当するものを1つ選んで下さい。		
よくできていると思う	29	11.3%
ある程度できていると思う	150	58.6%
あまりうまくいっていない	16	6.3%
どちらともいえない	24	9.4%
その他	10	3.9%
無回答	27	10.5%
(2) 助け合い活動において、困っていることはありますか。該当するものを全て選んで下さい。		
対象者から助け合い活動を拒否される	17	6.6%

質問及び回答選択肢	実数	構成比
助け合い活動が対象者の心の負担になっている	17	6.6%
対象者から対応できないほど多く頼まれる	8	3.1%
助け合い活動に時間をとれない	26	10.2%
助け合い活動が体力的にきつい	8	3.1%
技術的に無理なことを頼まれる	12	4.7%
ずっとしなければならぬのか不安	25	9.8%
助け合い活動の内容がどこまでなのか分からない	40	15.6%
特になし	111	43.4%
その他	6	2.3%
無回答	50	19.5%
問22 連絡調整会議に参加していますか。該当するものを1つ選んで下さい。		
参加している → (問23へ)	366	82.6%
参加していない → (問26へ)	61	13.8%
無回答	16	3.6%
問23 (問22)で「1 参加している」とお答えした方にお尋ねします。通常の連絡調整会議で見守り活動の報告をしますか。該当するものを1つ選んで下さい。		
毎回報告する → (問24へ)	117	32.0%
特別に報告するべきことがあるときだけ報告する → (問24へ)	214	58.5%
報告しない → (問25へ)	20	5.5%
その他	6	1.6%
無回答	9	2.5%
問24 (問23)で「1 毎回報告する」、「2 特別に報告するべきことがあるときだけ報告する」とお答えした方にお尋ねします。		
(1) 対象者の個人名の取り扱いについて、該当するものを1つ選んで下さい。		
個人名を出し報告	76	23.0%
個人名を出さないで報告	240	72.5%
その他	3	0.9%
無回答	12	3.6%
(2) 報告する内容について該当するものを全て選んで下さい。		
対象者の入院や入所などについて	187	56.5%
病気やケガなどの心身の変化	149	45.0%
行政サービスや助け合い活動が必要と思われる事例	118	35.6%
対象者本人が申し出た相談や要望	169	51.1%
その他	7	2.1%
問25 連絡調整会議にどのような感想を持っていますか。該当するものを1つ選んで下さい。		
有意義だと思う	158	43.2%
ある程度有意義だと思う	152	41.5%
あまり意義があるとは思わない	15	4.1%

質問及び回答選択肢	実数	構成比
どちらともいえない	18	4.9%
その他	1	0.3%
無回答	21	5.7%
問26 ふれあいネットワーク事業はどういった取り組みだと思いますか。該当するものを1つ選んで下さい。		
行政の事業	30	6.8%
行政が社協に委託した事業	252	56.9%
社協自主事業	105	23.7%
分からない	20	4.5%
その他	7	1.6%
無回答	18	4.1%
無効	11	2.5%
問27 福祉協力員にやりがいを感じますか。該当するものを1つ選んで下さい。		
やりがいを感じる	181	40.9%
やりがいを感じない	21	4.7%
どちらともいえない	213	48.1%
その他	16	3.6%
無回答	11	2.5%
無効	1	0.2%
問28 福祉協力員に負担感を感じますか。該当するものを1つ選んで下さい。		
負担感を感じる	56	12.6%
負担感をやや感じる	164	37.0%
負担感を感じない	134	30.2%
どちらともいえない	72	16.3%
その他	6	1.4%
無回答	10	2.3%

II 福祉協力員の小地域福祉活動調査票

平成19年12月末現在

(設問1)	所属している校(地)区社会福祉協議会を記入してください。
	_____区_____校(地)区社会福祉協議会
(設問2)	性別を選び、年齢を記入して下さい。
	1 男性 2 女性 _____歳
(設問3)	主たる職業を1つ選んで下さい。
	1 無職 2 会社員 3 自営業 4 主婦 5 その他 (_____)
(設問4)	ふれあいネットワーク事業は「見守り」「助け合い」「話し合い」の3つのしくみからなります。このことについて説明を受けた(資料を読んだ)ことはありますか。該当するものを <u>全て選んで</u> 下さい。
	1 研修会等で説明を受けた 2 資料を渡され読んだ 3 先輩の活動者に教えてもらった 4 説明や資料の提供を受けていない 5 その他 (_____)
(設問5)	校(地)区社会福祉協議会での役職は何ですか。該当するものを <u>全て選んで</u> 下さい。
	1 福祉協力員 2 ニーズ対応員 3 会長 4 副会長 5 事務局長・書記 6 ふれあいネットワーク部会長 7 その他 (_____)
(設問6)	校(地)区社会福祉協議会での福祉協力員を何年していますか。該当するものを1つ選んで下さい。
	1 「1年未満」 2 「1年以上2年未満」 3 「2年以上3年未満」 4 「3年以上5年未満」 5 「5年以上10年未満」 6 「10年以上」 7 「その他 (_____)
(設問7)	校(地)区社会福祉協議会以外で兼任している地域の役職はありますか。該当するものを <u>全て選んで</u> 下さい。
	1 自治連合会会長(おおよそ小学校区の自治会) 2 町内会長・自治区会長・自治委員協議会長 3 地区民児協会長(総務) 4 民生委員児童委員 5 まちづくり協議会理事 6 老人クラブ会員 7 兼務していない 8 その他 (_____)

(設問 8)	どのような経緯で福祉協力員になりましたか。該当するものを1つ選んで下さい。
1 自薦で	2 校(地)区社協の公募に応募して
3 校(地)区社協役員・福祉協力員から誘われて	4 自治会で役についたから
5 民生委員になったから	6 まちづくり協議会で役についたから
7 老人クラブの友愛訪問活動をしていたから	8 自治会からの依頼・推薦で
9 民生委員からの依頼・推薦で	10 まちづくり協議会からの依頼・推薦で
11 婦人会からの依頼・推薦で	12 市民センターからの依頼・推薦で
13 区社協やボランティアセンターでの紹介	14 ボランティア養成講座などを受けて
15 その他の団体からの依頼・推薦 (団体名_____)	
16 その他 (_____)	
(設問 9)	現在、見守り活動を、対象者一人に対して月に何回くらい行っていますか。該当するものを1つ選んで下さい。
1 週1回	2 月2回
	3 月1回
4 その他 (_____)	
(設問10)	現在、 <u>月1回以上</u> の見守り活動をどのような対象者に行っていますか。該当するものを <u>全て</u> 選んで下さい。
1 一人暮らし高齢者・・・・(____歳以上)	約 (____) 人
2 高齢者夫婦世帯・・・・(夫婦ともに____歳以上)	約 (____) 世帯
(夫婦のいずれか一人が____歳以上)	約 (____) 世帯
3 昼間だけ高齢者世帯・・・・(____歳以上)	約 (____) 世帯
4 障害のある人の世帯・・・・	約 (____) 世帯
5 単身で子育て中の世帯・・・・	約 (____) 世帯
6 その他 (_____)・・・・	約 (____) 世帯
(設問11)	見守り活動の対象者は、どのようにして把握しましたか。該当するものを <u>全て</u> 選んで下さい。
1 校(地)区社協からの情報	2 自治会からの情報
3 民生委員からの情報	4 自分で調査した
5 対象者を昔から知っていた	6 前任の福祉協力員からの引継ぎ
7 行政からの情報	8 近隣住民からの情報
9 その他 (_____)	
(設問12)	見守り活動によって孤独死の防止など安否確認に効果が上がっていると思いますか。該当するもの1つを選んで下さい。
1 効果があると思う	2 ある程度効果があると思う
3 効果はないと思う	4 どちらともいえない
5 その他 (_____)	
(設問13)	見守り活動において対象者の困っていること(福祉ニーズ)を見つけたり、相談されたりしたことがありますか。該当するもの1つを選んで下さい。
1 ある	→ (設問14) へ進んで下さい
2 ない	→ (設問15) へ進んで下さい

(設問14)	(設問13)で「1 ある」と答えた方にお尋ねします。 見つけた福祉ニーズや相談にどのように対応しましたか。A欄から該当するものを全て選んで下さい。またその相手先の対応をどのように思いましたか。B欄から1つ選んで下さい(A欄で選んだものだけ)。		
A欄	B欄(A欄で選んだものだけ)		
1 他に相談せず 自分が対応			
2 校(地)区社協 役員に相談	1 満足 4 やや不満	2 おおむね満足 5 不満	3 どちらともいえない
3 ニーズ対応チ ームに相談	1 満足 4 やや不満	2 おおむね満足 5 不満	3 どちらともいえない
4 民生委員に相 談	1 満足 4 やや不満	2 おおむね満足 5 不満	3 どちらともいえない
5 自治会に相談	1 満足 4 やや不満	2 おおむね満足 5 不満	3 どちらともいえない
6 市民センター に相談	1 満足 4 やや不満	2 おおむね満足 5 不満	3 どちらともいえない
7 区役所(保健師 など)に相談	1 満足 4 やや不満	2 おおむね満足 5 不満	3 どちらともいえない
8 地域包括支援セ ンターに相談	1 満足 4 やや不満	2 おおむね満足 5 不満	3 どちらともいえない
9 介護保険事業 者に相談	1 満足 4 やや不満	2 おおむね満足 5 不満	3 どちらともいえない
10 ボランティア 団体・NPO 団体に相談	1 満足 4 やや不満	2 おおむね満足 5 不満	3 どちらともいえない
11 隣近所に相談	1 満足 4 やや不満	2 おおむね満足 5 不満	3 どちらともいえない
12 対象者の家族 に相談	1 満足 4 やや不満	2 おおむね満足 5 不満	3 どちらともいえない
13 特に何もしな かった			
(設問15)	(設問13)で「2 ない」と答えた方にお尋ねします。なぜ相談がないと思いますか。該当するもの1つを選んで下さい。		
1 対象者が元気で何も問題を抱えてないから	2 相談などを受けるほど対象者と信頼関係がないから		
3 自分が相談を受ける役割にないから	4 分からない		
5 その他()			

↓ ここからは、全員の方にお尋ねします	
(設問19)	見守り活動において、困っていることはありますか。該当するものを <u>全て選んで</u> 下さい。
1 見守り訪問を拒否される 2 見守り対象者が心を開いてくれない 3 受け止められないほど見守り対象者が頼ってくる 4 見守り対象者の話が長い 5 見守り対象者が留守であることが多い 6 見守り対象者の体調が悪い 7 認知症の見守り対象者の対応方法 8 障害のある見守り対象者への対応方法 9 見守り活動に時間が取れない 10 見守り活動が体力的にきつい 11 対象者の家族の見守り活動への理解不足 12 近隣住民の見守り活動への理解不足 13 民生委員との見守り活動における連携 14 老人クラブ友愛訪問との見守り活動における連携 15 自治会との見守り活動における連携 16 見守り対象者が受けている介護保険事業者との連携 17 区役所（保健師・地域包括支援センターなど）との見守り活動における連携 18 特にない 19 その他（ _____ ）	
(設問20)	ゴミ出しや話し相手などの助け合い活動をされていますか。またその助け合い活動はどのようなもので、回数はどの程度ですか。該当するものを <u>全て選んで</u> 、おおよその回数を書いて下さい。対象者が複数の場合、合計してください。
1 話し相手・・・月____回ぐらい 2 ゴミ出し・・・月____回ぐらい 3 買い物・・・月____回ぐらい 4 薬取り・・・月____回ぐらい 5 掃除・・・月____回ぐらい 6 布団干し・・・月____回ぐらい 7 洗濯・・・月____回ぐらい 8 外出介助・・・月____回ぐらい 9 その他（ _____ ）・・・月____回ぐらい 10 助け合い活動はしていない →（設問22）へ進んで下さい	
(設問21)	（設問20）で何らかの助け合い活動を行っているとお答えした方にお尋ねします。
（設問21－1）助け合い活動は、良くできていると思いますか。該当するもの <u>1つを選んで</u> 下さい。 1 よくできていると思う 2 ある程度できていると思う 3 あまりうまくいっていない 4 どちらともいえない 5 その他（ _____ ）	
（設問21－2）助け合い活動において、困っていることはありますか。該当するものを <u>全て選んで</u> 下さい。 1 対象者から助け合い活動を拒否される 2 助け合い活動が対象者の心の負担になっている 3 対象者から対応できないほど多く頼まれる 4 助け合い活動に時間を取れない 5 助け合い活動が体力的にきつい 6 技術的に無理なことを頼まれる 7 ずっとしなければならぬのか不安 8 助け合い活動の内容がどこまでなのか分からない 9 特にない 10 その他（ _____ ）	
↓ ここからは、全員の方にお尋ねします	
(設問22)	連絡調整会議に参加していますか。該当するものを <u>1つ選んで</u> 下さい。
1 参加している →（設問23）へ進んで下さい 2 参加していない →（設問26）へ進んで下さい	

(設問23)	(設問22) で「1 参加している」とお答えした方にお尋ねします。通常の連絡調整会議で見守り活動の報告をしますか。該当するものを1つ選んで下さい。
	1 毎回報告する → (設問24) へ進んで下さい 2 特別に報告すべきことがあるときだけ報告する 3 報告しない → (設問25) へ進んで下さい 4 その他 ()
(設問24)	(設問23) で「1 毎回報告する」、「2 特別に報告すべきことがあるときだけ報告する」とお答えした方にお尋ねします。
	(設問24-1) 対象者の個人名の取り扱いについて、該当するものを1つ選んで下さい。 1 個人名を出し報告 2 個人名を出さないで報告 3 その他 ()
	(設問24-2) 報告する内容について該当するものを全て選んで下さい。 1 対象者の入院や入所などについて 2 病気やケガなどの心身の変化 3 行政サービスや助け合い活動が必要と思われる事例 4 対象者本人が申し出た相談や要望 5 その他 ()
(設問25)	連絡調整会議にどのような感想を持っていますか。該当するものを1つ選んで下さい。
	1 有意義だと思う 2 ある程度有意義だと思う 3 あまり意義があるとは思わない 4 どちらともいえない 5 その他 ()
	↓ ここからは、全員の方にお尋ねします
(設問26)	ふれあいネットワーク事業はどういった取り組みだと思いますか。該当するものを1つ選んで下さい。
	1 行政の事業 2 行政が社協に委託した事業 3 社協自主事業 4 分からない 5 その他 ()
(設問27)	福祉協力員にやりがいを感じますか。該当するものを1つ選んで下さい。
	1 やりがいを感じる 2 やりがいを感じない 3 どちらともいえない 4 その他 ()
(設問28)	福祉協力員に負担感を感じますか。該当するものを1つ選んで下さい。
	1 負担感を感じる 2 負担感をやや感じる 3 負担感を感じない 4 どちらともいえない 5 その他 ()
(設問29)	その他、日頃の活動の中でお考えのことをお聞かせ下さい。